

令和7年度

教育委員会の点検・評価表



大館市教育委員会

教育総務課

点検・評価の主旨について

1 点検・評価の主旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項に基づき、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければなりません。

本市教育委員会では、この法律の主旨にのっとり、効果的な教育行政の推進に資するとともに市民に対して明確でわかりやすい説明を行うため、本報告書を作成し議会に提出するとともに公表するものです。

2 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条に規定する教育委員会で職務権限とされている事務のほか、令和7年度の事務や取り組みとし、学校教育や生涯学習に関することなど、本市教育委員会が所管するすべての事務を対象の範囲としています。点検・評価に当たっては、大館市の「教育大綱」に掲げる「基本理念・基本目標」に沿って、重点施策としている事務・取り組みを選定して実施します。

3 学識経験者の知見の活用

点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ること（地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項）が求められていることから、学識経験者2名以上を選任し、点検・評価について個別に意見を聴取します。

4 報告書の作成

報告書の作成手順は、次のとおりです。

各課・館において、令和8年度の所管事務の点検・評価項目及び目標（重点施策点検・評価表の目標、活動内容）を作成します。（3月） R8年度は4月4月上旬までに、令和7年度の実施状況と見込みを取りまとめ、報告書（点検・評価）素案を作成します。

学識経験者から、報告書素案について意見を聴取し、報告書案を作成します。また、点検・評価の目標設定案について、意見を聴取します。（5月）

教育委員会会議（5月定例会）で、報告書について決議します。また、点検・評価の項目内容を報告し了承を得ます。（5月）

報告書を6月議会に提出するとともに、市ホームページで公表します。

目 次

基本理念 ふるさとに学び未来を創造できる「人財」の育成		
I	点検・評価の主旨について	頁
1	点検・評価の主旨	1
2	点検・評価の対象	1
3	学識経験者の知見の活用	1
4	報告書の作成	1
II	点検・評価の結果について	
基本目標		
	評価項目・内容	担当課
1	信頼と安全を築く教育環境の整備充実	
	重点施策	
1	安全・安心で快適な学校生活のための教育環境の整備充実を図る	3～5
2	豊かな人間形成の場としての社会教育施設等の整備充実を図る	教育総務課 6～7
3	大館の教育の理念と実践について、市民への周知と全国への発信に努める	8
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化	
	重点施策	
1	ふるさとキャリア教育を通して、自立の気概と能力を備えた人財の育成に努める	9～10
2	大館教育を起点として、社会、全国、世界との架け橋を構築する	11～12
3	学校と地域が織りなす教育活動の充実を図る	学校教育課 教育研究所 13～14
4	児童・生徒が教育パートナーとして支え合い、「おおだて型授業(響学)」の質を更に高める	15～16
5	学習指導要領に対応した教育環境や基盤の整備を推進する	17
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援	
	重点施策	
1	ふるさとキャリア教育の理念に基づく「知の循環型社会」の形成に努める	18～20
2	市民版ふるさとキャリア教育を推進し、社会人の学び直しを支援する	21～25
3	「未来大館市民」を育成するため、地域とのつながりを生かした活動の充実を図る	生涯学習課 中央公民館 地区公民館 26～32
4	高校生や大学生による「街づくり活動」等を支援する	33
5	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する	34～38
6	「生涯読書」活動を推奨し、その推進と拡充に努める	39
7	伝統・芸術・文化の継承と振興を支援する	40
4	郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成	
	重点施策	
1	大館の歴史と文化を学ぶ機会を提供し、市民の誇りと自信を醸成する	41～42
2	郷土の伝統文化を継承・普及する活動を支援する	歴史文化課 43
3	文化財の保護と調査を進め、未来に伝える	44～46
4	歴史的風致維持向上計画に基づき、風致を構成する有形無形の文化財の保全と活用に努める	47

重点施策点検・評価表

1-1-1

基本目標		
1	信頼と安全を築く教育環境の整備充実	
重点施策		
1	安全・安心で快適な学校生活のための教育環境の整備充実を図る	担当課(館)
	① 長寿命化改修等による学校整備計画の推進	教育総務課
活動内容	小中学校25校中、9割に当たる22校が建設後30年を経過し、学校施設の老朽化対策を早急に講じる必要がある。このため、「学校施設長寿命化計画」を基に建築経過年数や構造体の健全度を考慮しつつ、学校の統合再編を見据えた選択的な長寿命化改修・大規模改修により、施設整備を計画的に実施する。	
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)	
	<p>令和7年度の当初で予算措置した工事・修繕は計画通り実施した。比内中学校教室棟の外壁を耐震対策工事で安全性を高め、第一中学校のバリアフリートイレ増設工事を実施し、教育環境の向上に努めた。</p> <p>しかし、比内中学校の外壁耐震対策工事では、着工後、外壁内部等の状態により、施工内容の変更が必要であることが判明し、大幅に予算額を追加をすることになった。</p> <p>※計画した大規模修繕等工事3件がすべて完了したため目標どおりと評価した。</p>	
課題等	<p>築年数が長くなるにつれて、比内中学校のようなケースが増えると予想される。学校教育施設の整備は当課単独では出来ないため、施設全体についての整備計画を関係各所と協議・検討していくことが喫緊の課題となっている。</p> <p>市の財政面からみても、先延ばしにできない課題のため、優先順位を定めた計画的な工事・修繕と併せて、再編に注力していく必要がある。</p>	<p>取組の方向性</p> <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等意見	<p>校舎の老朽化で、予期せぬ工事・修繕費増が考えられる。比内中学校の耐震対策工事のように工事の追加などがあって、限られた予算の中で対応しなければならず大変難儀したと思われる。このような事態に対応するためにも柔軟に対応できる予算を確保していくべきである。</p> <p>小学校や中学校、放課後など子どもたちが学校で活動する時間が多いので、学校統廃合などの整備計画を見据えながら、安全に過ごせるようお願いしたい。</p>	

重点施策点検・評価表

1-1-2

基本目標	
1	信頼と安全を築く教育環境の整備充実
重点施策	
1	安全・安心で快適な学校生活のための教育環境の整備充実を図る
	担当課(館)
	② 学校の維持改修・修繕などの経年劣化対策実施による学習環境の整備
	教育総務課
活動内容	<p>施設や設備の改修・修繕が必要な箇所や、学校・PTA等から要望がある改修箇所は、次年度の予算要求前に調査をし、小規模から中規模のものは改修内容の分類や必要経費を算出した上で、危険度などの優先順位を定めて計画的に工事を実施する。</p> <p>今年度は、前年度リース契約にて導入した3校以外の小中学校全校について、今年度限りの合併特例債を財源としたLED照明化工事を実施する。また、トイレの洋式化率が特に低い学校の改善を図るなど、学習環境を整備する。</p>
点検評価	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) </p> <p>令和7年度は令和6年度末からの実施設計を基に、既にリース契約で導入済みの3校を除く22校で体育館と普通教室のLED照明化工事を完了し、花岡小学校では洋式トイレの追加を実施し、成章小学校には製菓会社のプレゼント事業に当選して追加設置していただいた。</p> <p>また、各学校の老朽化した電気設備更新や給排水関連の修繕等、多くの設備の改善を図った。</p> <p>本年度は大雪の影響による破損・故障が例年より多く、年度末で予算の制約もあったが、一刻も早い復旧のため、現場では市職員が多くの作業をして、工夫しながら補修に当たった。</p> <p>※計画した主な工事及び修繕17件はすべて完了した。また、予算内で対応できない分を職員の作業等により補完することで対応したため、目標を上回ると評価した。</p>
課題等	<p>例年同様、学校・PTA等からの要望は校舎や設備に対する改修がほとんどで、教育活動に支障がないよう、危険度や使用頻度等を考慮し対応しているが、解消には至っていない。</p> <p>将来的な見通しの下、各校の理解を求めながら、より効果的、効率的な予算の運用をもって整備していく。</p> <p>財源についても情報収集しながら、今後は民間の資源等、活用可能なものを検討しなければならない。</p>
学識経験者等意見	<p>成章小学校のトイレ洋式化のように予算財源を幅広く探して民間の力を導入するとういうのも一つの事業である。できるところから対応をお願いしたい。</p> <p>大雪被害に対し業者も多忙で手が回らないなか、職員が率先して対応にあたるなど目標を上回る評価に繋がったと思われる。PTAから要望の多いエアコン設置は年々暑さが厳しくなるなかで、子どもたちの体調管理に係る大事なことなので、引き続き環境整備をお願いしたい。</p>
	<p>取組の方向性</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度 </p>

重点施策点検・評価表

1-1-3

基本目標	
1	信頼と安全を築く教育環境の整備充実
重点施策	
1	安全・安心で快適な学校生活のための教育環境の整備充実を図る
	担当課(館)
	③ 会計年度任用職員(校務主事等)の適正な人事管理
	教育総務課
活動内容	小中学校に配置している校務主事等、教育総務課で任用しサービスの管理をしている会計年度任用職員は50人を上回る。配置校によって勤務時間や勤務条件も多種多様で中途退職者も多いことから、適正な人事管理により児童生徒の学校生活を支援し、より良い教育環境づくりを進める。また、人材確保等の業務の効率化を目的に、校務主事のアウトソーシングを検討する。
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)
	<p>年度途中の退職があってもハローワークを通じた補充をし、学校運営や教育活動に支障をきたすことなく適正に管理した。</p> <p>アウトソーシングについては県内各市へアンケートにより調査したところ、外注している市はあったが、人材獲得が難しいなど、いずれも課題を抱えているとのことであった。また、見積を徴取したところ、現在の直接任用より高額となり、当面は現実的ではないとの結論に至った。</p> <p>※アウトソーシングは実施しないこととしたが、本市や県内の実態とアウトソーシングする場合の経費・手法を確認でき、今後に繋ぐことができたことと、適正な人事管理が出来たため、目標どおりと評価する。</p>
課題等	<p>現時点では人件費の高騰もあり、アウトソーシングは適切ではないと判断したが、学校再編や学校を取り巻く環境の変容により、校務主事任用の条件は変わる可能性がある。</p> <p>行政効率化の流れの中で、今後もアウトソーシングは検討の余地があるため、情報収集していく。</p>
	<p>取組の方向性</p> <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等意見	<p>学校にとって校務主事などの会計年度任用職員の必要度は非常に高く、校内では教員とは別に子どもを見守る目となってくれることもある。欠員が生じた際は、すぐにハローワークを通じて補充に努めるなど素早い対応であったと評価する。</p> <p>アウトソーシングについて、見積書を徴取するなど流れを見ながら対応しており、引き続き、子どもたちの安全性、見守りを含めて現場に不便がないよう体制を整えていただきたい。</p>

重点施策点検・評価表

1-2-1

基本目標	
1	信頼と安全を築く教育環境の整備充実
重点施策	
2	豊かな人間形成の場としての社会教育施設等の整備充実を図る
	担当課(館)
	① 社会教育施設の充実と安全性の確保
	教育総務課
活動内容	栗盛記念図書館の老朽化したボイラー更新工事を行い、設備の機能維持を図る。また、栗盛記念図書館の屋内消火栓ポンプ流量計取替、中央公民館エレベーターセンサー、田代図書館小荷物専用昇降機インバータの取替修繕、各施設の支障木の伐採等を行い、安全な利用環境を確保する。
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) 以下の工事・修繕を実施した。 【工事】 ○栗盛記念図書館ボイラー更新工事 【修繕】 ○栗盛屋内消火栓ポンプ流量計修繕 ○中央公民館エレベーターセンサー交換修繕 ○田代図書館小荷物専用昇降機インバータ交換修繕 また、市民文化会館の中ホール搬入口シャッター取替修繕、赤川分館や旧三岳小学校の支障木伐採を実施、施設の安全な環境整備に努めた。 ※計画した工事及び修繕4件はすべて完了したため、目標どおりと評価した。
課題等	学校施設同様に老朽化による破損・故障が多く、物価・人件費の高騰により、対応できる修繕範囲は限られている。 人口減少が著しい中、十分な施設整備を実施するには何が 必要か、政策的観点、所管課との協議等により方向性を見出す時期に来ている。
	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等意見	社会教育施設の整備では、担当課(教育総務課)だけではなく、関係する他課との連携を密にし、今後の方向性なども視野に入れた政策的観点で対応して行くことが重要である。今後も施設の利用率を高めて、より有効に活用できるよう適切な修繕・工事に努めていただきたい。

重点施策点検・評価表

1-2-2

基本目標	
1	信頼と安全を築く教育環境の整備充実
重点施策	
2	豊かな人間形成の場としての社会教育施設等の整備充実を図る
	担当課(館)
	② 社会教育施設の適正管理
	教育総務課
活動内容	施設の運営に直接影響を及ぼす冷暖房冷却水ポンプ交換工事(中央公民館)、浄化槽ブロワー更新工事(郷土博物館)やコンデンサ取替工事(比内公民館)を実施し、良好な環境を維持する。また、各施設の破損や故障には応急処置などで対応しながら、速やかに必要な予算を確保して修繕や改修を実施し、利用者に快適な利用環境を提供する。
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) 以下の工事を実施した。 【工事】 ○中央公民館冷却水ポンプ交換工事 ○郷土博物館浄化槽ブロワー更新工事 ○比内公民館高圧進相コンデンサ更新工事 このほか、文化会館のテレビ共同受信設備撤去工事、田代公民館早口一分館の屋根葺替工事を実施した。 ※計画した工事3件はすべて完了したため、目標どおりと評価した。
課題等	社会教育施設においても、安全性を第一に、可能な限り快適に利用できる環境づくりに努めた。 中央公民館や文化会館は、本庁舎と並んで市の顔となる施設で、市外からの来庁者の目に触れる機会も多いが、十分な整備が出来ているとは言えない。 いずれも築年数40年と44年で、建物の修繕や設備の更新を要する案件が多く、1件当たりの規模も大きいため、民間の力の導入も視野に入れながら、計画的に順次対応する。
	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等意見	文化会館や中央公民館は大きなイベントなどで使用されることが多い施設で、築年数も40年以上経過しているが、引き続き長期に渡って活用できるようにしていかなければならない。今後も将来へのビジョンをもって、修繕工事の優先順位を考慮しながら、大事に維持管理を続けるようお願いしたい。

基本目標	
1	信頼と安全を築く教育環境の整備充実
重点施策	
3	大館の教育の理念と実践について、市民への周知と全国への発信に努める
	担当課(館)
	① 教育委員会施策の情報発信の強化
	教育総務課
活動内容	<p>毎月開催する教育委員会会議では、施策やその進捗状況などを的確に報告し、協議や討議内容を議事録にまとめてホームページ等で公表する。</p> <p>教育委員会事務事業の点検・評価表や総合教育会議の議事録など、教育委員会の活動内容を市民をはじめ全国に発信し、取り組みを進めている教育の産業化構想やおおだて型教育の周知を図るとともに、大館で学ぶ移住・交流人口の拡大に努める。</p> <p>教育委員会活動の透明性を高めるため、ホームページやSNS、定例記者会見、報道機関などを活用し、情報発信をより積極的に行う。</p>
点検評価	<p><input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>教育委員会会議及び総合教育会議の議事録、教育委員会事務事業の点検・評価結果など大館の教育がとり組む活動内容について理解を深めていただくため、市ホームページで公表した。</p> <p>また、地元新聞社への掲載を依頼したり、一部事業についてはSNSを利用した情報発信も行った。</p> <p>※教育委員会他課からは新たに公式LINEでも情報発信したが、教育総務課においては話題性のある情報提供がなかったため、目標をやや下回ると評価した。</p>
課題等	<p>大館の教育の理念と実践結果を全国に情報発信する手段として、市ホームページとSNS等を活用しているが、ふるさと納税のインセンティブとなることも意識し、どの発信媒体でも大館の特色を前面に出していくことが重要。</p> <p>一方、市民へのお知らせは、年齢層によっては地元マスコミ報道が有効であるため、積極的に幅広い媒体を活用していく。</p> <p>取組の方向性</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 継続</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止検討</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度</p>
学識経験者等意見	<p>会議など通常の情報提供は行っているので問題はないと推察する。イベントなどPRできる事業が少ないため提供できる情報量はどうしても限られるものの、今後は課で実施している工事状況などを新しいアイデアやメニューを取り入れながら市民への積極的な周知を行い、より透明性を高めていただきたい。</p>

基本目標

2 ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化

重点施策

1 ふるさとキャリア教育を通して、自立の気概と能力を備えた人財の育成に努める 担当課(館)

① ふるさとキャリア教育を積み重ねて生みだされた「強み」の進化・深化

学校教育課
教育研究所

活動内容
ふるさとキャリア教育14年目を迎え、これまでの各校の百花繚乱作戦や子どもハローワーク、子どもサミットなどの取組から生みだされた「強み」を一層充実させるため、子どもの心が動くような教育をしかける。そして、子どもたち自身が「ひと・こと・もの」へ主体的に関わることで、ふるさとへの愛着を深め、「未来大館市民」として成長するための教育的効果を高めていく。

- 目標を上回る (達成率100%超)
- 目標どおり (95~100%)
- 目標をやや下回る (80~94%)
- 目標を大幅に下回る (80%未満)

【全国学力学習状況調査 児童生徒質問調査結果】

※単位:%

小6	社会貢献力・社会変革力		中3	社会貢献力・社会変革力	
	11	27		11	27
	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか		人の役に立つ人間になりたいと思いますか	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか
市(1)	84.5	52.5	市(1)	81.4	41.7
市(2)	14	39.8	市(2)	18.1	49.1
市合計	98.5	92.3	市合計	99.5	90.8
県(1)	82.6	47.8	県(1)	80.1	36.1
県(2)	15.3	42.3	県(2)	18.2	50.4
県合計	97.9	90.1	県合計	98.3	86.5
国(1)	73.7	33.8	国(1)	71.3	22.4
国(2)	22.7	47.5	国(2)	25.3	52.9
国合計	96.4	81.3	国合計	96.6	75.3

【秋田県学習状況調査 児童生徒質問調査結果】

※ 県を100と見たときの指数

質問番号	質問事項	小4	小5	中1	中2	平均
2	5 人の役に立つ人間になりたいと思う	101.1	100.5	101.7	101.7	101.2
	6 地域のためになる活動に進んで取り組みたいと思う	102.3	99.7	109.7	106.8	104.6

どちらの結果を見ても、地域社会のために行動をおこしたいと考える児童生徒の割合が非常に高い。

- (1) 子どもハローワーク参加人数はのべ約1000名となり、旧市街だけでなく、比内町からの参加が増えた。また、大型イベントの開催があり、高校生の参加も順調に伸びている。
- (2) 子どもサミットにおいて、各校での地域貢献活動について市長を交えて意見交流ができた。
- (3) 各学校の百花繚乱作戦が、新聞に多数掲載された。

課題等

- (1) 子どもハローワークについては、小中学生だけではなく高校生の参加数が増えてきているので、高校生の体験場所を今後も考えていきたい。また、おおとり教室に入級している不登校の児童生徒が参加できるよう地域の協力を得たい。
- (2) 子どもサミットにおいて、継続してきた活動だけでなく地域貢献活動をさらに各校に呼びかける。
- (3) 今後も各学校における百花繚乱作戦において、地域の人たちと積極的に関わる活動を継続し、児童生徒の社会的使命感が高まっていくことを期待している。

取組の方向性

- 継続
- 廃止検討
- 単年度

学識経験者等意見

・ふるさとキャリア教育が始まって14年目ということで、定着しつつあると感じているし、今までの取り組みの積み重ねが好循環になってきている。
 ・各学校の取組が、地域にもともとあった取組をバージョンアップさせたものになっている。こうした活動を通して、人の役に立ちたいという子どもの変容が見えてきている。
 ・子どもの個性や特長といった凹凸の部分を引き揚げながら、個の成長が見える指導の厚みを出してほしい。
 ・おおとり教室と地域との協力による活動は面白い取組である。今後も新しいものにチャレンジしてほしい。

基本目標	
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化
重点施策	
1	ふるさとキャリア教育を通して、自立の気概と能力を備えた人財の育成に努める
	② いじめ・不登校問題の予防及びその克服のための支援体制の充実
	担当課(館)
	学校教育課 教育研究所
活動内容	いじめ・不登校調査の分析と活用、関係機関との連携により、未然防止と早期対応を一層充実させる。特に不登校対策については、毎月実施している「欠席状況調査」において、日数の累計だけではなく、児童生徒の現状を精査した上で一人一人の実態を的確に把握し、学校と連携する。また、年度の切り替わりや小学校から進学先の中学校への情報の引き継ぎを確実に行うことで、切れ目のない支援体制を構築し、学校への情報提供や助言をきめ細かに行う。
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)
	不登校及び不登校傾向の児童生徒数は、昨年度に比べ減少傾向にある。特に、小学校での増加が抑えられている。成果点としては、関係機関との情報共有による諸問題への対応及び支援体制の充実が挙げられる。毎月の欠席状況調査の分析の他、夏季休業中の市内全小中学校との情報交換会や年3回の子育て相談会の実施などによって、いじめ・不登校等の諸問題を抱える児童生徒の情報を共有し、その対応について協議している。このことが、各校での一人一人に応じた具体的な支援や対応、あるいは家庭との連携によるカウンセリングや各種発達検査などにつなげることができている。 また、不登校及び不登校傾向の児童生徒及び保護者が悩みを抱え孤立することなく、必要とする情報や支援を得られるように、市内の相談機関等で扱っている活動内容について「子ども、保護者、家庭サポート窓口」として取りまとめ、全家庭に周知している。このことがきっかけとなり子育て相談会につながるケースも増えている。さらに、子育て相談会も1度きりの相談で終わるのではなく、継続的な支援体制につなげることができた。
課題等	不登校の原因は様々で多岐にわたるが、家庭状況を背景とするケースも多い。児童相談所や福祉部子ども課が関わるケースも増えている。今後も、各関係機関と不登校の未然防止の取組や支援の在り方について連携していくとともに、一人一人の児童生徒に応じた各校における支援体制づくりと組織的対応が迅速に進むよう働き掛けをしていく。
	取組の方向性
	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等意見	・相談機関として、常任の臨床心理士の功績は大きい。さらに、福祉課、子ども課、病院等といった関係機関との連携が他市よりも進んでいると感じている。 ・ふるさとキャリア教育による人と人とのつながりが功を奏している。 ・不登校の早期発見に留まらず、より初期段階の「なりかけ」を見つけてほしい。

基本目標	
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化
重点施策	
2	大館教育を起点として、社会、全国、世界との架け橋を構築する
	担当課(館)
	① 教育ツーリズムによる「本質を追い求める教員が集う街」の実現
	学校教育課 教育研究所
活動内容	ふるさとキャリア教育が、掲げる理念の先見性、生み出す活動のクオリティ、織り成す組織のアクティビティなど、公教育における先駆的、先覚的、先導的教育実践を追求し、教育ツーリズムを通して、参集を希望する志ある全国の教員が、あるべき教育の姿を語り合う場を設定する。
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) 令和7年度の教育ツーリズムによる訪問要請の教育交流(受入)実績は、実人数がおよそ762人、講演や出前授業等の参加者は約600人となっており、両方の取組を合わせた交流都道府県数は20を超えている。 今年度の特徴として、本市が全国に先駆けて取り組んでいる「架け橋プログラム」への関心の高さから、講演等の要請とその参加者が増加したことが挙げられる。幼保小連携の重要性がうたわれている現在において、この傾向は今後とも継続すると考えられる。 教育交流では、視察プログラムの中に「教育実践についての懇談の場」を設定し、学力向上等の施策に係る協議を、視察団体が進行役となって行うように企画した。その結果、受入校においては、管理職のほか、研究主任や特色ある授業実践を展開している教員等が同席する場面が見られるようになり、自校の中核的教員等の人材育成に活かそうとする管理職の意識の高まりにつながった。このことは、抽出調査ではあるものの、今回初めて実施した本市教職員の意識調査にも表れている。
課題等	令和7年度は、視察依頼等の各校への均等な振り分けと「教育実践についての懇談の場」の設定に一定の成果が見られた。これは、視察等を学校経営と人材育成に活かしたいという視点で各校長が戦略をもって受け入れてくれたことが大きい。事務局の情報を積極的に各校で共有しながら、受け入れにかかる要望や課題等についても早い段階で協議することができた。 大館市教育委員会事務局としては、外部教育関係者との交流を通して、「大館市公立学校教員の資質向上に役立てる」という本質的なねらいを常に持って調整を図っている。そのためには、視察等を受け入れる「発信」だけでなく、他県の情報も吸収していく「受信」という体制も一層整備していきたい。だからこそ、他県からの参加にも「お客さん」として参加するのではなく、視察等における明確なねらいと自己の課題や実践等の紹介等も課すことで、教育交流と人材育成の関係性をより実感できる方策を考えていきたい。
学識経験者等意見	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度 ・文科省の教育構想等を的確につかみ、臆することなく進んでいる、そのチャレンジする姿勢を評価したい。 ・昨年、全都道府県からの視察を達成し、他県に行かなくとも他県の状況を伺い、研修ができていようなので、一層整備し子どもたちを育ててほしい。

基本目標	
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化
重点施策	
2	大館教育を起点として、社会、全国、世界との架け橋を構築する
	担当課(館)
	② ふるさとの価値を多面的かつ広域的に捉える機会の充実
	学校教育課 教育研究所
活動内容	ふるさとキャリア教育による学びを根幹に、子どもサミットや海外研修等の活動を通して成長した児童生徒が全国や世界の視点からふるさと大館を見つめることで、豊かな未来についての想像力や思考力、社会に働きかける実践力などを伸長するとともに、その姿を積極的に地域に発信する。
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)
	<p>子どもサミットについては、年2回の代表会議を庁舎議場で開催されるようになってから、多くの市議会議員の皆様や学校関係者、保護者にも参観いただき、小・中学生の視点で「大館市をよりよくする方法」を考え、提案、情報発信をする場となっている。昨年度は、特に、子どもたち自身が「メディア依存に関わる諸問題」を自分事として捉え、各校で特色あるメディアコントロールの活動を進めた。自校の活動にとどまらず、中学校区で連携をし、縦のつながりのある活動を展開した学校もある。今後も、未来大館市民のリーダーとしての気概を高め、「地域のために、学校のために私たちにできることは？」について考え、取り組んでいく予定である。</p> <p>海外研修については、研修の充実を図るため、全5回に渡る事前学習会を実施し、日常英会話の他、昨年度の研修生による講話を聴いたり、研修先での生活経験者から現地の生活や研修の際のアドバイスを受たりなどの学習を行った。研修先のニュージーランドでは、文化施設や学校訪問、ファームステイ等の体験活動を行い、異国の歴史や文化に触れ、日本との違いや互いのよさに気づいたり、ふるさと大館や自己を見つめ直したりすることができた。</p> <p>また、帰国後、研修の成果を市長への報告会で発表をした。</p>
課題等	<p>年2回の代表会議後には、参加した代表委員が自校で報告や伝達を行っているが、その方法等については学校間に差があるように感じる。各校の担当者にしっかりと働きかけ、子どもサミットの共通実践事項が徹底されるようにしたい。</p> <p>物価高騰の折、海外研修においては、保護者負担が年々大きくなっているのが現状である。生徒の成長にとって大きな効果を与える本研修であるため、今後も広く門戸を開き、多くの生徒にとっての貴重な学びの場として継続していきたい。</p>
	<p>取組の方向性</p> <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等意見	<p>・子どもサミットは、各校で子ども達が案を出し合いサミットで報告する流れとなっており、自分たちで作りに上げていくスタイルとなっていることがとても良いと感じている。</p> <p>・海外研修は、物価高騰の折、予算的に大変だと思うが、対象者が減少しても灯を消さないよう今後も続けてほしい。</p> <p>・サミットや研修で育った子どもたちが20代になり、いろんな形で大館におかえししている、そういった例が実際にあるので、ぜひ、継続してほしい。</p>

基本目標	
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化
重点施策	
3	学校と地域が織りなす教育活動の充実を図る
	担当課(館)
	① 就学前教育及び中等・高等教育とのつながりを重視した「教育の縦の基軸」の強化
	学校教育課 教育研究所
活動内容	小学校に接続する全てのこども園等による幼保小架け橋プログラムにより策定した就学前教育カリキュラムの実践と、地域の県立高等学校、特別支援学校、大学等のリーダーの方々と教育理念や教育実践について議論を交わす「教育懇談会」の開催を通して、大館盆地における教育ベクトルの一体化を図り、未来大館市民に直径する縦の基軸を強化する。
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)
	・文部科学省委嘱事業「幼保小の架け橋プログラム」のモデル自治体を経て、市内全ての小学校区が策定した架け橋期のカリキュラムを実践・展開することができた。様々な連携や交流活動を通して、園と小学校が企画や事後の協議を重ね信頼関係が構築され、共に架け橋期の子どもたちを育てる機運が醸成されている。 ・7月に開催された「教育懇談会」においては、新たな「おおだてふるさとキャリア教育」のグランドデザインに基づく小・中学校、高等学校、特別支援学校、高等教育機関等のキャリア形成に係る一環した育ちの循環について共有を図った。さらに、各校の児童生徒、学生の実態を踏まえた「未来大館市民」育成の成果や課題、そして今後の展望等についての協議を通して、高等学校長のふるさとキャリア教育の理解の深まりを感じた。
課題等	・完成した幼保小の架け橋期のカリキュラムに基づいて、全小学校・園が連携や交流、日常の授業・保育の改善に取り組むことになる。引き続き、幼保小の架け橋プログラム促進事業を活用して架け橋コーディネーターを配置し、新たなモデル地区(有浦小・扇田小)を指定しながらカリキュラムを検証し、幼保小連携を一層推進する。 ・大館への愛着や地域に貢献しようとする意欲を、定住、地元就職、地域社会への参画意識へつなげるための方策について、引き続き高等教育機関との協議を進め、「大館盆地に軸足をおいて、自分の人生の道筋を考える」という体験の創出を推進する。
	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等意見	・今は種をまき、芽が出てきている段階で、水やりとしての施策が大事と思うので、できあがったプログラムを実のあるものにしてほしい。 ・中学と高校とのつながりという縦軸ができてきた。これは、研究会活動等を行い教育イズムの共有化を図ってきた成果と思うので、今後期待したい。

基本目標	
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化
重点施策	
3	学校と地域が織りなす教育活動の充実を図る
	担当課(館)
	② 地域住民や民間企業等との連携等「教育の横の基軸」の生かしたスクール・コミュニティの形成
	学校教育課 教育研究所
活動内容	学校が核となり、地域住民や民間企業と連携した多様な教育活動を創出することで、主体的・対話的なスクール・コミュニティを一層活性化するとともに、そこから生まれる様々な発想の実現を通して社会的有用感を育て、社会変革力や実践力の育成を図る。
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) 令和7年度、早口小学校が創立150周年を迎え、学校では記念事業として羽州街道の旅(弘前城見学など)、早口川の徒渡り、記念学習発表会など地域とのつながりを深める様々な記念事業が行われました。 記念事業の実施に当たり、学校運営協議会委員は、学習発表会のパネラーの役を担うなど、積極的に事業に参画し、学校と地域をつなぐ重要な役割を果たした。 各校で開催された学校運営委員会における学校の取組に関する評価は、全ての学校で概ね良好との結果となっている。 学校運営協議会の設置状況及び委員数 小中単独19協議会、小中合同協議会3協議会(6校) 各校の保護者や地域住民など、延べ249人
課題等	令和7年度に委嘱した学校運営協議会委員の任期は2年間であるため、令和9年度からの新たな委員を選任するに当たり、各校長に候補者の推薦を依頼する必要がある。 令和8年度中に各校との連携を密にし手続きを進める。
学識経験者等意見	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度 ・大館は全学校に協議会があるということで、学校への応援団として、学校運営協議会委員249人のバックアップはありがたい。そして、子どもたちが育つ環境がある。 ・各学校によって、特色ある取り組みは様々だが、共通していることは地域と学校との一体感であると感じる。これが大館の強みであると思う。

基本目標																																																																																																																																																																																		
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化																																																																																																																																																																																	
重点施策																																																																																																																																																																																		
4	児童・生徒が教育パートナーとして支え合い、「おおだて型授業(響学)」の質を更に高める																																																																																																																																																																																	
	担当課(館)																																																																																																																																																																																	
	① 「おおだて型授業(響学)」を通して、「協働的な学び」と「個別最適な学び」を一体的に充実																																																																																																																																																																																	
	学校教育課 教育研究所																																																																																																																																																																																	
活動内容	<p>おおだて型授業(響学)を通して子どもたち一人一人の資質・能力を更に伸ばしていくために、「協働的な学び」と「個別最適な学び」を一体的に充実させ、「子どもの質の高い学び」を図る。これまで大館が培い成果を上げてきた「共感的・協働的な学び合い」を継承しながら、子どもたち自身が学びの方向性を見だしていく。そのために多様な他者を教育パートナーとして、支え合いながら進行・展開していく学びを目指し、教師が「学びを支える適切な指導・支援」ができるよう学校訪問等を通して各校に指導・助言を行う。また、おおだて型学力推進委員会においては、第1次学力向上に関する提言についての各校の効果的な実践をまとめた「SHI・N・KA」の発行や、全国学力・学習状況調査や県学習状況調査の児童生徒質問の「おおだて型学力」に係る項目について、データの分析を継続的に行っていく。</p>																																																																																																																																																																																	
点検評価	<p><input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>【全国学力学習状況調査 児童生徒質問調査結果】 (1) 当てはまる (2) どちらかといえば当てはまらない ※単位:%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">設問35</th> <th colspan="2">設問31</th> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">設問35</th> <th colspan="2">設問31</th> </tr> <tr> <th>学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたりすることができていますか</th> <th>5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか</th> <th>学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたりすることができていますか</th> <th>5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか</th> <th>市(1)</th> <th>市(2)</th> <th>市合計</th> <th>県(1)</th> <th>県(2)</th> <th>県合計</th> <th>国(1)</th> <th>国(2)</th> <th>国合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小6</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>市(1)</td> <td>市(2)</td> <td>市合計</td> <td>県(1)</td> <td>県(2)</td> <td>県合計</td> <td>国(1)</td> <td>国(2)</td> <td>国合計</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> <td>45</td> <td>▲</td> <td>24</td> <td>◎</td> <td>46.6</td> <td>▲</td> <td>13</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>43.4</td> <td></td> <td>45</td> <td>◎</td> <td>44.5</td> <td></td> <td>42.7</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> <td>88.4</td> <td>○</td> <td>69</td> <td>◎</td> <td>91.1</td> <td>▲</td> <td>55.7</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>49.6</td> <td></td> <td>26.9</td> <td></td> <td>45.1</td> <td></td> <td>20.3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>39.9</td> <td></td> <td>43.5</td> <td></td> <td>44.6</td> <td></td> <td>43.1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>89.5</td> <td></td> <td>70.4</td> <td></td> <td>89.7</td> <td></td> <td>63.4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>40.9</td> <td></td> <td>26.8</td> <td></td> <td>35.1</td> <td></td> <td>18.9</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>44</td> <td></td> <td>41.8</td> <td></td> <td>49.6</td> <td></td> <td>44.1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>84.9</td> <td></td> <td>68.6</td> <td></td> <td>84.7</td> <td></td> <td>63</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>◎ 国・県の平均より高い ○ 国より高く県より低い ▲ どちらよりも低い</p> <p>【秋田県学習状況調査 児童生徒質問調査結果】 ※ 県を100と見たときの指数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>質問番号</th> <th>質問事項</th> <th>小4</th> <th>小5</th> <th>中1</th> <th>中2</th> <th>平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>3 普通の授業では、友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考え方を深めたり、広げたりすることができていると思う</td> <td>103.1</td> <td>95.1</td> <td>102.1</td> <td>103.7</td> <td>101.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>「話し合う活動を通して自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたりすることができる」については、どちらの調査も肯定的回答の割合が小学校・中学校とも約90%前後を維持し、県学習状況調査においては、県平均を越えている。 これは、共感的・協働的な学び合いを通して、自分と違う他者の思考に寄り添い、共にゴールを目指す学び合いが、小学校から中学校へと継続して行われているからと考えられる。</p>		設問35		設問31			設問35		設問31		学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたりすることができていますか	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたりすることができていますか	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	市(1)	市(2)	市合計	県(1)	県(2)	県合計	国(1)	国(2)	国合計	小6					市(1)	市(2)	市合計	県(1)	県(2)	県合計	国(1)	国(2)	国合計		○	45	▲	24	◎	46.6	▲	13								43.4		45	◎	44.5		42.7							○	88.4	○	69	◎	91.1	▲	55.7								49.6		26.9		45.1		20.3								39.9		43.5		44.6		43.1								89.5		70.4		89.7		63.4								40.9		26.8		35.1		18.9								44		41.8		49.6		44.1								84.9		68.6		84.7		63						質問番号	質問事項	小4	小5	中1	中2	平均	4	3 普通の授業では、友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考え方を深めたり、広げたりすることができていると思う	103.1	95.1	102.1	103.7	101.0
	設問35		設問31			設問35		設問31																																																																																																																																																																										
	学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたりすることができていますか	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたりすることができていますか	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか		市(1)	市(2)	市合計	県(1)	県(2)	県合計	国(1)	国(2)	国合計																																																																																																																																																																				
小6					市(1)	市(2)	市合計	県(1)	県(2)	県合計	国(1)	国(2)	国合計																																																																																																																																																																					
	○	45	▲	24	◎	46.6	▲	13																																																																																																																																																																										
		43.4		45	◎	44.5		42.7																																																																																																																																																																										
	○	88.4	○	69	◎	91.1	▲	55.7																																																																																																																																																																										
		49.6		26.9		45.1		20.3																																																																																																																																																																										
		39.9		43.5		44.6		43.1																																																																																																																																																																										
		89.5		70.4		89.7		63.4																																																																																																																																																																										
		40.9		26.8		35.1		18.9																																																																																																																																																																										
		44		41.8		49.6		44.1																																																																																																																																																																										
		84.9		68.6		84.7		63																																																																																																																																																																										
質問番号	質問事項	小4	小5	中1	中2	平均																																																																																																																																																																												
4	3 普通の授業では、友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考え方を深めたり、広げたりすることができていると思う	103.1	95.1	102.1	103.7	101.0																																																																																																																																																																												
課題等	<p>「児童生徒が自分の考えが相手に伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたか。」という設問に、小中ともに課題が見られる。教師が児童生徒に目を向け、集団の学び合いの中で一人一人が相手に伝える力を高めるにはどのような指導・支援が必要かより工夫していくことが求められる。</p>																																																																																																																																																																																	
学識経験者等意見	<p>・設問31の回答結果を見ると大館の人はすごく謙虚だと思う。 ・調査結果から、学校は数値に現れない部分を掘り下げていくべきだし、市は傾向を把握して学校が経営にどう組み込んでいくのかを確認すべきと思う。 ・個の学びを広げることが大事になるが、個の意見が少数の意見を消さないような環境を大事にして欲しい。</p>																																																																																																																																																																																	
	<p>取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度</p>																																																																																																																																																																																	

基本目標		
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化	
重点施策		
4	児童・生徒が教育パートナーとして支え合い、「おおだて型授業(響学)」の質を更に高める	担当課(館)
	② 「おおだて型授業(響学)」の実効性を高めるツールとしてICTを効果的に活用	学校教育課 教育研究所
	<p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校のICT推進委員を核として、全小・中学校に整備されたタブレット端末、電子黒板、学習支援ソフト、デジタル教科書等の活用を支援する。 ・校務支援システムの書庫に、国語科・算数科・数学科において、ICTの効果的な活用場面を位置付けた年間指導計画や各校のICTの効果的な活用実践事例を入庫する。教職員がいつでも閲覧し、効果的に活用できるようにデータを蓄積していく。 ・学校の壁を越えた学習スタイルを推進し、オンラインを活用し、複式学級のある学校同士が日常的に繋がる等、授業の中で多様な見方や考え方に触れ合えるようにする。 	
	<p>点検評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) <p>市内25校でのICT活用支援のため、市教委にICT支援員を1名配置し、各校の要望に合わせ、実際に出向いて支援にあたっている。また、各校ではICT活用推進委員が中心となり、授業におけるICTの効果的な活用が進められている。年に2回行われるICT活用推進委員会では、ICTの活用に関わる成果点と課題点を協議し、改善点を次年度につなげている。秋田県学習状況調査の児童生徒質問紙の結果においても、数値の上昇が見られる。</p> <p>秋田県学習状況調査の児童生徒質問紙(小4~中2の平均)においても、ICTに関わる項目において、全て県平均を上回っている。(県を100とした市の指数)</p> <p>1 普段の授業では、コンピュータなどのICT機器をどのくらい使用していますか …(103.3)※R5 97.1</p> <p>2 あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり調べたりするために、どのくらい使用していますか …(102.9)※R5 95.8</p>	
	<p>課題等</p> <p>各校のICT推進委員を核として、全小・中学校に整備されたタブレット端末、電子黒板、学習支援ソフト、デジタル教科書等の活用に躊躇している学校を、重点的に支援する。</p> <p>運用ポータルサイト(校務PC内)に、国語科・算数科・数学科において、ICTの効果的な活用場面を位置付けた年間指導計画や、各校のICTの効果的な活用実践事例を入庫し、教職員がいつでも閲覧できるように蓄積していく。</p> <p>また、学校の壁を越えた学習スタイルを推進し、オンラインを活用し、複式学級のある学校同士が日常的に繋がる等、授業の中で多様な見方や考え方に触れ合えるようにする。</p>	<p>取組の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
	<p>学識経験者等意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機器の使い方も大分慣れてきていることと思う。 ・ICTを効果的に使うためには、利用のタイミング、活用の仕方(どこで使うのか)を考えることが大事。このことが資料作りを工夫することの指導につながる。 ・これからの子どもたちはICTがないと生きていけない時代である。 ・子どもの成長に合わせた使い方をして、未来の大館市民となるような子どもたちを育ててほしい。 	

基本目標	
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化
重点施策	
5	学習指導要領に対応した教育環境や基盤の整備を推進する
	担当課(館)
	② 学校と行政の連携により個性や特性が発揮できる教育環境や教職員の職場環境の整備
	学校教育課 教育研究所
活動内容	<p>・令和2年度に国のGIGAスクール構想により導入した1人1台タブレット端末の更新・整備を着実に実施するため、県及び関係者と連携を図りながら進める。また、校内通信ネットワーク環境の高速化と安定性を確保するため、全校でネットワークの改修を実施し、合わせて児童生徒が安全・安心してインターネットを利用できるよう、Webフィルタリング機能も導入する。さらに、ネットワーク改修後、校内ネットワークの高速化及び安定性が図られているかどうか検証するため、ネットワークアセスメント(ネットワーク環境の診断)を実施する。</p> <p>・令和元年度に導入した校務支援システムは、令和7年度中に県が進める統合型校務支援システムに切り換え、引き続き、学校における様々な事務処理(校務)の効率化を図り、教職員の負担軽減や超過勤務時間の削減など、働き方改革等につなげたい。</p>
点検評価	<p><input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>国のGIGAスクール構想により令和2年度に整備した児童生徒1人1台端末を、国の補助金を活用して12月から5年間のリース契約により更新をした。また、児童生徒が安全・安心してインターネットを利用できるよう、Webフィルタリング機能も導入した。さらに、前回整備できなかった教員用端末も新規に整備した。</p> <p>・児童生徒用端末台数 3,970台</p> <p>・指導者用端末台数 353台</p> <p>校務支援システムの更新については、秋田県で進めている統合型校務支援システムの共同利用切り換えを行った。引き続き、学校における様々な事務処理(校務)の効率化を図り、教職員の負担軽減や超過勤務時間の削減など、働き方改革等につなげたい。</p>
課題等	<p>・小中学校の授業で使用している電子黒板は、現在92台、主に令和5年度に整備した90台が授業で使用している。各校の使用状況を見ると、年々使用率、使用回数も増えていて、現場の先生方から電子黒板を授業でもっと活用したい、授業で使う教材の作成が容易で、負担の軽減につながっているとの声もあり、今後、追加の整備を検討する必要がある。</p> <p>・次世代校務DX環境整備の入り口として、校務系と学習系ネットワークを統合したが、今後は、校務用端末と指導者用タブレットを統合し、教職員も1人1台環境にする方向に進めることの検討が必要である。</p>
学識経験者等意見	<p>・現場の先生方に有効に活用して欲しいと思うし、子どもたちも使いこなすことがこれからの流れと思う。頑張ってもらいたい。</p> <p>・市で子どもたちのために、多大な費用をかけてデジタル機器を整備してくれていることはありがたい。引き続き、感謝を忘れず、無駄のない使い方をお願いしたい。</p>
	取組の方向性
	<input type="checkbox"/> 継続
	<input type="checkbox"/> 廃止検討
	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援	
重点施策		
1	ふるさとキャリア教育の理念に基づく「知の循環型社会」の形成に努める	担当課(館)
	① 達人講座の実施	生涯学習課
	活動内容	地域のサークル等の講師(達人)が、小中学生(親子含む)を対象にボランティアで講座を開設し、21講座を実施し伝統文化の継承や各サークル活動の充実を図る。
	点検評価	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) </p> <p> 今年度新たに2講座(ボードゲーム講座、ログハウス風小物カギ入れづくり)を加え28講座実施した。 近年流行しているボードゲーム、カードゲームを活用した講座「ボードゲーム講座」が今までにないジャンルとして子どもたちに人気であった。 申し込み方法について、昨年度より二次元コードを用いた電子申請を可能にし、電子で申し込みできるような仕組みを整備した(前期のみ、紙又は電子)。今年度後期開催分については業務効率化を図るため紙での申し込みを廃止し、電子での申し込みのみとした。 新たな分野の講座の開催のほか、参加しやすい仕組みづくりに努めた。また、地域の人材と知識を活用し、市民の生涯学習を推進するとともに地域の絆や文化の継承、さらには次世代の育成に寄与することができた。今後とも、伝統文化の継承や各サークル活動等のPRに貢献していきたい。 ・令和5年度:26講座(申込者数527人、前年度より19%増) ・令和6年度:30講座(申込者数512人、前年度より 3%減) ・令和7年度:28講座(申込者数242人、前年度より53%減) </p>
	課題等	<p> 昨年度より申込者数が大幅減少となった。その主な原因は、例年人気のスイーツづくり2講座が、講師の日程が合わず開催できなかったことと、屋外での講座が、クマの大量出没による影響で中止となったことによるものである。 今後は、屋外の講座が中止となった場合、屋内で実施するなど、実施場所も配慮して開催していただけるよう講師へお願いしていきたい。 </p> <p> 取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度 </p>
	学識経験者等意見	<p> 新規講座の実施など、時代に合った、子どもたちの意識を考えた形に積極的に取り組んでいる。電子申請の導入も、利便性向上と業務効率化にも繋がる良い取り組みだと思う。 人数的な部分は残念だったが、様々な事情があるので、やむを得なかったと思う。 </p>

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援	
重点施策		
1	ふるさとキャリア教育の理念に基づく「知の循環型社会」の形成に努める	担当課(館)
	② 人材リスト「おおだて人財名簿」及び「大館市出前講座」の充実と活用	生涯学習課
	<p>活動内容</p> <p>「おおだて人財名簿」:学校、公民館などに名簿を配置し、市ホームページも更新。人財名簿について、名簿への登録の要望があるものの、人財名簿を通じた活動実績がないことから、実態を再度把握するとともに制度上の問題点などを洗い直し、あり方を検討する。</p> <p>「大館市出前講座」:市民の自主的な学習活動を支援するため、市の制度や事業等について市職員が出向いて説明を行う「出前講座(61講座)」を実施し、利用件数150件、受講者数5,000人(延べ)を目指す。</p>	
	<p>点検評価</p> <p><input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>おおだて人財名簿は、年度当初に1名の新規登録を行い、年間を通し申請が1件のみであった。活動実績について令和元年度以降0~1回と停滞している。</p> <p>令和6年度 登録31人 14団体(令和5年度同様)</p> <p>令和7年度 登録32人 14団体</p> <p>大館市出前講座は、昨年度と比較すると実施件数は増加したが、受講者数は減少となった。内容としては例年と同様に「もしものための救急講座」、「いざというときのための防災講座」等の消防に関する講座、「ボッチャ体験」の実施が多かった。また、昨年度に比べ「大館市の防災(防災基礎講座)」の実施件数が5件以上増えており、地域の防災意識の高まりが見られる結果となった。</p> <p>今後も身近な問題や市政の情報などのテーマについて、市民の学習のニーズに応えられるよう市民の学びの機会を積極的に提供していきたい。</p> <p>令和5年度 実施件数 258件 受講者数 7,514人</p> <p>令和6年度 実施件数 187件 受講者数 5,683人</p> <p>令和7年度 実施件数 204件 受講者数 5,643人</p>	
	<p>課題等</p> <p>おおだて人財名簿は、平成23年に発行し運用してきたが、年々人財名簿の利用、登録が減少している。令和元年度以降の活動実績が0~1回と減少が続いているため、令和8年度からの廃止を検討する。</p> <p>大館市出前講座は、昨年度よりメニュー数が4個減少したが、実施件数・受講者数ともに目標値を上回った。また、直近過去3年間で実施が0件の講座もあるため、市民ニーズにあったメニューの見直しにより一層の周知をしていきたい。</p>	<p>取組の方向性</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 継続</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止検討</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度</p>
	<p>学識経験者等意見</p> <p>人財名簿は、今まで積み上げてきたものについては資料保管などを行い、今後は形を変えていっても良いのかと思う。</p> <p>出前講座は身近な問題として防災関連が多く取り上げられ、今後はクマ対策などの要望も増えてくると思う。引き続き市民のニーズに応えられるようメニューを見直しながら提供していただきたい。</p>	

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援	
重点施策		
1	ふるさとキャリア教育の理念に基づく「知の循環型社会」の形成に努める	担当課(館)
	③ 公民館事業への青少年の参加促進	中央公民館
	<p>活動内容</p> <p>各公民館が、小・中・高校生を対象とした事業を学校休業日を利用して開催し、参加を促進する。既存の事業がマンネリにならないよう改善を加え、新規事業も企画・立案し、新規参加者が年々増えていくよう配慮する。わんぱくスクール全6回延べ60人、ラジオ体操開始・終了大会は各10団体100人、7月に行うラジオ体操ワンツー・ワンツー！では200人を予定。</p>	
	<p>点検評価</p> <p><input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>わんぱくスクールでは 子供たちの関心が高い内容【「ドローン体験(夏)」、「簡単に作れるおやつ作り(冬)」等】や保護者が関心を寄せている内容【「新しいお札の秘密(夏)」、「子どもの護身術(冬)」】も合わせて開催した。新しいお札の秘密(夏)では、新任教諭の方3名が研修で参加した。単に子供向け講座というだけでなく、「新任教諭の研修の場」ともなり、一定の開催効果があったと思われる。</p> <p>夏休みに入ってすぐに将棋教室を行い、続けて囲碁教室を行った。ここ数年どちらも参加者が減少している。将棋教室では、最終日にミニ将棋大会を行った。初日に大会実施を説明したことにより、勝負への意欲が沸き、講師と児童の交流も深まったと思われる。</p> <p>新春書初め交流会では老大学生は小学生それぞれの状況を見ながら、適格にアドバイスを行った。休憩時間に一緒にお菓子を食べながら会話が弾み、異世代交流にもつながった。</p> <p>※令和7年度実績 ①わんぱくスクール 全7回 延べ参加人数 61名 ②将棋教室は3日開催、延べ参加人数44名、囲碁教室開催3日 延べ参加人数6名。 ③新春書き初め交流会は小学生9名、老壮大学生書道クラブ6名の合計15名参加。 ④ラジオ体操 4月開始大会100名、10月終了大会50名、7月大規模ラジオ体操 110名参加</p> <p style="text-align: center;">計386人</p>	
	<p>課題等</p> <p>・わんぱくスクールの外での活動は、天候に左右されるため開催方法の見直しや講座を開催の周知するため放課後児童クラブ等への協力やSNS等を活用した情報の発信を行う。また、将棋・囲碁教室は参加者数が減少していることや関心の低さがあるため、他の講座に変更することも検討する。 ・ラジオ体操については、各町内への参加要請、近隣の学校への周知も積極的に行って行きたい。</p>	<p>取組の方向性</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度</p>
	<p>学識経験者等意見</p> <p>参加者が興味のある内容でイベントが開催できている。これからも人気講座の継続のほか、新しい内容も吟味しながら続けて欲しい。また、他団体との連携や情報発信の強化を行い、新規受講者の確保に努め頑張ってほしい。</p>	

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援	
重点施策		
2	市民版ふるさとキャリア教育を推進し、社会人の学び直しを支援する	担当課(館)
	① 生涯学習推進体制の充実	生涯学習課
	<p>活動内容</p> <p>生涯学習に関する市民の意見・要望を反映させるため、生涯学習推進協議会において協議するとともに、地域における学習活動を奨励するため、生涯学習奨励員の自己研鑽と活動の充実を図る。社会教育主事の資格取得のための環境整備を行い、生涯学習推進体制へつなげる。(幹事会及び協議会を各年1回開催)</p>	
	<p>点検評価</p> <p> <input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) </p> <p>生涯学習推進協議会では、7月に幹事会(書面協議)、8月20日に協議会を開催した。令和7年度生涯学習推進計画、社会教育推進計画を案件とし、各委員からさまざまな意見や助言等が出された。今後、各種生涯学習事業の展開・改善に役立てていく。</p> <p>今年度は、委員が任期満了に伴い、新たに7人の委員が新任となったため、改めて生涯学習推進計画、第8次大館市社会教育中期計画の基本理念等を説明した。また、生涯学習フェスティバルについて、出席された委員の方々に、協賛団体としての参加依頼や9月、10月の強調月間のイベント参加などについてPRをしたところ、積極的に参加の意向があり、イベントを盛り上げていただいた。これにより推進協議会を通じた関係機関・団体との連携強化を図った。</p>	
	<p>課題等</p> <p>生涯学習推進本部としてさらなる庁内連携を進めるとともに、今年度の協議会での委員の意見を反映できるようにしていきたい。</p> <p>生涯学習奨励員には、学習した成果として、地域住民が各種行事や学習会などに参加できるよう、学習情報の収集と提供ができるようにしたい。</p>	<p>取組の方向性</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度 </p>
	<p>学識経験者等意見</p> <p>生涯学習推進協議会委員の方からは、所属団体のイベント参加など、積極的な協力が得られているとのことで、組織の活性化にも繋がっていくと思う。</p> <p>生涯学習奨励員の方々には、よりやりがいを感じ、生き生きと活躍してもらえるように、サポート体制を整えていただきたい。</p>	

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援	
重点施策		
2	市民版ふるさとキャリア教育を推進し、社会人の学び直しを支援する	担当課(館)
	② 大館学び大学事業教育の定着	中央公民館
	<p>活動内容</p> <p>学びによる人材育成、専門的知識の習得、若い世代の公民館利用の促進を主な目的として市民の学びの場を構築していく。 受講者数:令和7年度目標 450人</p>	
	<p>点検評価</p> <p> <input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input checked="" type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) </p> <p>大館学び大学は令和6年5月に中央公民館の主催事業として開講し、2年目となる。 令和7年度は5月24日から3月14日までの間に30講座を企画した。3月末時点での実施状況は、30講座で参加者数418人。 コンセプトは、令和6年度は「学びの入り口」で令和7年度は「学びを繋ぐ」である。大館で活躍している人を講師に迎え、様々なジャンルの講座で学びの入り口を体験し、学び直しやサークル活動へと繋いだ。また、大館学び大学を通じ若い世代の公民館利用の促進も図った。 市民への周知方法としては1つに偏らず、広報と地方紙への募集記事掲載、SNS(X)の活用・市民ホールでのチラシ配布などさまざまな方法で情報発信に努めたところ、高齢者の参加としては広報掲載の効果が顕著であった。また、ポイントカードの導入により、参加者の約2割の人がリピーターとして2回以上の参加となっている。</p>	
	<p>課題等</p> <p>今年度後半は、どの講座もコンスタントに10名程度の申し込みがあり、「大館学び大学」の講座が認知されてきたと思われる。 有料講座であることから、受講者は学びに対しても真剣な思いで参加していることが感じられ、主催者としては講師との入念な打合せの重要性を実感している。 社会人の学び直しと生涯学習の融合をうたっていることから、趣味的な要素の講座も多いが、受講者の思いに応える質の高い講座を維持していくことが今後の課題である。</p>	<p>取組の方向性</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 継続</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止検討</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度</p>
	<p>学識経験者等意見</p> <p>主催がNPO法人から公民館に変わり、内容の充実や精査が難しい面もあったと思うが、職員のアイデアやアンケート結果の活用により充実が図られている。参加者も費用を支払い学んでることから真剣な学びの場となっている。主催者、講師、参加者の思いが繋がることで、より深い学びとなりレベルアップが図られるよう引き続き頑張してほしい。 課題も多いと思うがその一つ一つを解決しながら、より良い講座として今後も大いなる展開が図られることを望む。</p>	

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援	
重点施策		
2	市民版ふるさとキャリア教育を推進し、社会人の学び直しを支援する	担当課(館)
	③ 「大学公開講座」、「大学校公開市民講座」の開催	生涯学習課
	<p>活動内容</p> <p>市民の高度化・多様化した学習要望に応えるとともに、高等教育機関に対する理解を深めるためにそれぞれの特徴を活かした市民の公開講座を各年2回開催する。</p>	
	<p>点検評価</p> <p> <input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95～100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80～94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) </p> <p>秋田看護福祉大学の「大学公開講座」は、7月8日及び10月25日の計2回で開催した。認知症の方の権利擁護及び健康づくりをテーマにした講義を実施し、延べ95人が受講した。なお、第2回の10月25日に実施した講座は、大学側からの提案で、大学祭と同時開催することとなり、学内でも講座の周知を積極的にしていただいた。</p> <p>秋田職業能力開発短期大学校の「大学校公開市民講座」は、10月に計3回開催し、DXと関連技術、AR(拡張現実)の体験、3D CADの操作体験をテーマに講義を実施し、延べ25人が受講した。</p> <p>講座では、今では身近となっているIoTやAIの技術の仕組みなどを学んだほか、専門的な機器やソフトウェアを駆使した「モノづくり」を体験することができ、大変有意義な講義をしていただいた。</p>	
	<p>課題等</p> <p>公開講座は、慣例的に平日の夜に開催することとしており、受講者は毎回参加している方が多く、固定化されていると感じられた。</p> <p>今年度は秋田看護福祉大学で土曜日に開催した実績ができたことから、より多くの方に受講していただけるよう、大学・大学校とも調整しながら、開催日時の見直しを図っていく必要があると考える。</p>	<p>取組の方向性</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度 </p>
	<p>学識経験者等意見</p> <p>地域の高等教育機関の活用は、素晴らしい取り組みだと思う。PR方法をもっと工夫すれば、参加者が増え、より普及拡大していくのではないかと。頑張ってもらいたい。何かとタイアップするのも良いのでは。</p> <p>学校側としても、人材獲得、学校のアピールになれば、双方にとっていい事業になっていくと思う。</p>	

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援	
重点施策		
2	市民版ふるさとキャリア教育を推進し、社会人の学び直しを支援する	担当課(館)
	④ 超高齢社会に対応した生涯学習の充実	中央公民館
	<p>活動内容</p> <p>公民館サークル活動等の学習成果を生かす場の拡充や、高齢者の豊かな体験・知識・技術・特技を生かす場を充実させるため、子どもとの世代間交流も行う。中央公民館老壮大学92人全10回、各地区公民館高齢者学級開催(11館)。</p>	
	<p>点検評価</p> <p> <input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) </p> <p>老壮大学は卒業の無い大学であることから、学生の平均年齢は80歳である。60歳代の生き方が多様化しており、60歳代前半の参加者数は少ない。老壮大学の講座として、人生100年時代を生き生きとすごすための講話や健康維持の活動がとても好評であり、月1回の参加が生活のリズムを作っているようである。</p> <p>今年度は、老壮大学文化祭に城南小学校6年生のゴスペルの発表と市民サークルの出演があり、高齢者との交流を深めた。さらに新春書き初め会での老壮大学書道クラブと小学生の交流も行い異世代交流ができた。</p> <p>今年度実績:老壮大学 全10回学生94名(前年度全10回105名) ほか全地区公民館(11館)でも高齢者学級を実施</p>	
	<p>課題等</p> <p>老壮大学の運営に関して、運営委員会が主体となって実施してきたが、大学生の高齢化に伴い役員を引き受ける人が激減している。</p> <p>令和8年度は役員の任期2年目であるため改選はないが、役員の退学により欠員が出ており、これまで以上にひとりの人が複数の役を担う形になりそうである。令和9年度の役員改選に向けて、今後の運営方法について検討が必要と思われる。</p>	<p>取組の方向性</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度 </p>
	<p>学識経験者等意見</p> <p>時代の動きや変化を踏まえ、事業を考えていく必要がある一方で、主体となる運営委員の考えも大事。60代ははまだ働き盛りであり、自然と参加者の平均年齢は高くなるが、それを踏まえ方向性を考える必要がある。人気のある講座もあり、引き続き充実したものとしてほしい。高齢者は家の外での交流は大事であり館外研修などの楽しみもある。積み上げてきたものを活かしながら工夫、改善をして進めて欲しい。</p>	

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援	
重点施策		
2	市民版ふるさとキャリア教育を推進し、社会人の学び直しを支援する	担当課(館)
	⑤ 障がい者のための生涯学習の推進	生涯学習課
活動内容	比内支援学校及び障害者施設との連携により、障害者の生涯学習の機会を創出し、共生社会の実現に向け持続可能な活動の実践研究を行う。障がい者の生涯学習講座数:R7年度目標7講座	
点検評価	<p>■ 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p>□ 目標どおり (95~100%)</p> <p>□ 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p>□ 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>文部科学省より事業5年目として受託し、生涯学習連携協議会を3回、生涯学習講座を5回、コンファレンスを開催し、アウトプットすることができた。障がい者にとって自らが望む生涯学習活動や余暇の充実を図る活動を、合理的配慮を受けながら行える共生社会実現への実践研究を継続した。</p> <p>成果として、①市民(支援者)においては、心のバリアフリー、合理的配慮を学ぶ機会を提供し、学びと実践を継続的に行った。②比内支援学校及び就労施設を訪問しニーズ調査を実施、今年度の講座企画へ反映させることができた。③なんでも発表会は、連携協議会関係者、ボランティア登録者、高校生ボランティアなど多くの方が協力・運営に関わり参加者との交流もあり、共生社会への構築につながった。参加した障がい者はステージ上で自らの練習の成果を発表、観客から大きな拍手のほかペンライトや応援グッズを持ち寄り応援する姿も見受けられ会場を盛り上げ一体感が生まれた。</p> <p>講座全体の参加人数は、生涯学習講座に延べ316人が参加し、うち障がい者は47人の参加であった。デフリンピック応援デフバスケットボール体験会やはちくんオープン(ボッチャ)など障がい者の活動を広げる取り組みにはのべ691人参加した。今年度新たに2人がボランティア登録していただいたほか、子どもハローワークの小・中・高校生ボランティア、一般ボランティアなどが、講座やなんでも発表会などに延べ56人の協力があった。</p>	
課題等	<p>課題としては、講座参加者同士のつながりの構築、社会教育施設における障がい者が参加できる講座企画、障がい者サポーターの増員、講座情報の継続的発信。</p> <p>また、サポートだけでなく、一緒に活動する体験を通じた障がい理解の機会提供などがあげられる。</p>	<p>取組の方向性</p> <p>□ 継続</p> <p>■ 廃止検討</p> <p>□ 単年度</p>
学識経験者等意見	5年間、難儀もされて定着を図られたと思うが、国からの委託がなくなったところで、これからの取り組みが大事になると思う。障がい者、家族、その他関係者も大変期待している事業だと思う。やれる範囲で継続していただきたい。	

基本目標	
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援
重点施策	
3	「未来大館市民」を育成するため、地域とのつながりを生かした活動の充実を図る
	担当課(館)
	生涯学習課
	① 学校支援活動事業の推進
活動内容	市内の全小中学校を対象に、学校で必要とする活動と地域住民の知識と経験をマッチングさせ、地域の方々のボランティア派遣や地域の教育力を学校教育へ活用する等、地域ぐるみで子どもを育む環境整備を図るとともに、学校を核とした地域の活性化につなげる活動を支援する。
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)
	<p>学校運営協議会の構成員として地域学校協働活動推進員が参画し、学校と地域の連携・協働を図った。(R7年度は、22協議会中21協議会)</p> <p>①各校の特色ある授業・大館ふるさとキャリア教育の支援、クラブ活動やスキー教室等の学校行事における地域協力者のコーディネートによる教職員の負担軽減。</p> <p>②地域課題の解決に向けた活動として、児童・生徒による地域のクリーンアップ活動や防災活動、伝統芸能・郷土芸能の継承、福祉施設での活動など、さまざまな地域と学校の協働活動を推進した。</p> <p>③学校ホームページや学校報等により、児童・生徒の様子や地域協力者の活動状況を伝えることで地域協力者の意欲向上や新たな人材確保につなげた。</p>
課題等	<p>学校が抱える課題や地域と連携・協働して取り組むべき課題について、十分な情報共有と一体的な推進を図るため、学校運営協議会の構成委員として、地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)が参画できるよう、引き続き周知・啓発に努めていく。</p> <p>また、学校により地域学校協働活動推進員の活動時間に差があることから、予算額に対し活動時間が少ない学校に対しては、改めて地域学校協働活動推進員を有効に活用していただくよう声掛けする必要があると思われる。</p>
	<p>取組の方向性</p> <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等意見	<p>コーディネーターの方に頑張ってもらいたいのはもちろんだが、負担になっても困る。昨今、安全対策も必要とされており、サポート体制が重要である。学校と地域とが、うまく連携を図っていければ。コーディネーターは学校と協力しながらやっていく活動であり、充実した活動につながるよう支援をお願いしたい。</p>

基本目標	
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援
重点施策	
3	「未来大館市民」を育成するため、地域とのつながりを生かした活動の充実を図る
	担当課(館)
	生涯学習課
	② 家庭教育の充実
活動内容	家庭教育推進事業の一環として、市内幼稚園、保育園、小中学校を対象に「子育て講座(40講座)」を開催する。また、「おしゃべりひろばひだまり」は家庭教育支援チームと連携し、子育て中の親を対象に育児の悩みや不安の解消を図る。家庭教育推進事業：R7年度目標1,900人
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)
	各種講座・研修会の開催により、育児不安の軽減、地域全体での見守り体制の構築を図ることができた。 ○「おしゃべりひろばひだまり」5月~2月にかけて全12回開催。参加者307人 ○「子育て講座」全40講座のうち28講座実施 参加者1,067人 ○「親育ち！家庭教育支援ネットワークづくり事業」 ・適応指導「おひとり教室」ふれあいお楽しみ会 計2回 参加者44人、ボランティア6人 ・助産院イスキア菅原光子先生による孫育て講座 計1回、参加者8人 ・学校、家庭、地域連携総合推進事業スキルアップ研修会「AIの時代に自分で考える力を育てるために」講師：東京家庭教育研究所 澤木 孝枝 氏、参加者96人(オンライン参加含む) ・中学校特別学級支援事業 計3回(北陽中学校1回、東中学校2回) 参加者計22人 ・「Let'sGo! 木育ひろば」 計20回、参加者440人 各講座 合計 1,990人
課題等	子育て講座について、例年40講座実施していたが28講座と減少した。また、令和8年度より枠数が40講座から30講座へ削減となる予定である。 孫育て講座について、高齢者サークル等を対象に年3回ほど実施してきたが、講座を希望する団体が見つからず、今年度は1回のみで開催となった。また、令和元年度より開催を続け、地域のかたへ十分に孫育てについて周知できたことから、ほかの講座の展開を検討していきたい。
	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等意見	家庭教育推進事業は、子どもを持っている親世代にとっては大変ありがたいし興味深いものなので、積極的に応援してほしいと思う。 ただ毎年のようにやっても、ニーズが少なくなってきたものについては、思い切って別の方向に持っていくというのも当然必要だと思う。その辺りは実態をうまく把握しながら、形を変えてやっていただければいいのかなと思う。

基本目標	
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援
重点施策	
3	「未来大館市民」を育成するため、地域とのつながりを生かした活動の充実を図る
	担当課(館)
	生涯学習課
	③ 放課後児童健全育成事業及び放課後子ども教室推進事業並びにわくわく土曜教室推進事業の実施
活動内容	放課後の児童が「安全・安心」を第一に充実した放課後を過ごせる場を提供する。さらに、土曜日等の支援として体験活動や学習機会を提供する。各施設の児童を交流を図るために、かるた大会等の交流事業や支援員を対象とする定例会開催する。(随時開催)
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)
	今年度もクラブでの季節の行事やイベントを実施し、児童に対して放課後及び土曜日等の体験活動を提供することができた。 定例会は随時開催し、支援員との情報の共有に努めた。また、支援員の研修会は、資質向上研修会、経験年数に応じた体系的な研修を行う児童厚生員等基礎研修等へ参加していただき、支援員の現場での実践力向上と個々のスキルアップを図り資質の向上に努めることができた。
課題等	<p>施設設備や面積要件、三密を避ける対策等クリアすべき事案を整理しつつ、児童数の減少とも結びつけながら図っていく必要がある。</p> <p>また、支援員の研修の場の充実を図ることが求められていることから、秋田県及び秋田県児童館等連絡協議会が主催する研修会などに参加することで、支援員の資質向上を図る。今年度の交流事業については、豪雪や選挙のため、やむを得ず中止とした。今後は交流事業のあり方も検討していきたい。</p>
	取組の方向性
	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等意見	支援員の資質向上に向けた研修や情報交換の機会が設けられているのは、いいことだと思う。何をしたいのか、不安な部分も多いと思うので、そういう面でサポートしていただければ心強い、是非継続していただきたい。安全面も考慮しながら可能な限り応援していただければ、家庭教育の充実にもつながっていくと思うので、是非サポートを充実させていただきたい。

基本目標	
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援
重点施策	
3	「未来大館市民」を育成するため、地域とのつながりを生かした活動の充実を図る
	担当課(館)
	生涯学習課
	④ 音楽療法士派遣事業
活動内容	継続事業として、市内幼稚園、保育園、小中学校からの派遣依頼を受け、自閉症気味な子や発達が気になる子、特別支援学級在籍児童に対し音楽療法を実施し、児童の情緒の安定を図る。全20回予定。
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input checked="" type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)
	派遣要請のあった市内の小中学校の特別支援学級や、気になる子を含めた保育園児を対象に9回の派遣を実施した。 先生と音楽療法士が協力することで、ドラムセットやDJセットなどさまざまな楽器を用意し、一緒に演奏や交流することを楽しみ、精神的な安定とコミュニケーション能力の向上に努めることができた。音楽を介して、心と体を活性化させ、発達障害の主な特徴となる人とのやりとり、言葉によるコミュニケーション、行動すること、感情の安定に対して効果が期待されている。 特別支援学級や少人数単位でも利用可能で、いろいろな楽器や楽しい手法を用い、子どもが自らやりたいくなるようなセッションで、コミュニケーション能力や共感力の向上に努めている。
課題等	年度当初、半年後の2回に渡り事業の周知を行ったが、予定の半数ほどの実績となった。また、音楽療法の活動は家庭教育推進事業の「子育て講座」でも行っていることから、令和8年度より本事業は廃止となる。
	取組の方向性 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等意見	当事業は廃止でも、別事業と整理統合して継続するというのであればいいと思う。 大館市には一人しか音楽療法士がおらず、近隣市でも少ないとのことだが、音楽療法自体の効果は非常に大きいので、スケジュールの調整等をうまく図り、活動を継続していただきたい。

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援	
重点施策		
3	「未来大館市民」を育成するため、地域とのつながりを生かした活動の充実を図る	担当課(館)
	⑤ 青少年健全育成活動の充実	生涯学習課
活動内容	青少年健全育成推進方針に基づき、関係機関と連携を図りながら様々な活動を実施し、青少年健全育成に対する市民の意識高揚と青少年健全育成のための環境整備を図る。	
点検評価	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) </p> <p> 学校及び青少年関連団体・機関等による青少年問題協議会を開催し、青少年健全育成推進方針の策定や情報共有・事業連携を図った。 また、7月5日に中央公民館を会場に「青少年を非行から守る市民のつどい」を開催し、Odate Marching Band TEDAOLE and 大館ジュニアバンドによるオープニング公演や、内閣総理大臣メッセージの伝達、秋田県教育庁北教育事務所職員による特別講話を実施し、青少年の非行・犯罪防止と、社会を明るくする運動の啓発をしたほか、青少年に地域がどのように関わられるかその方策の一つについて知る機会とした。 (参集者数146人) </p>	
課題等	<p> 様々な団体に参加のご協力をいただいております。目標人数よりも多い人数が参加している。来年度の社会を明るくする運動は、大館市が秋田県内のモデル地区となることから、「青少年を非行から守る市民のつどい」を例年以上に盛り上げるため、開催プログラムを工夫していきたいと考えています。 </p>	<p>取組の方向性</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度 </p>
学識経験者等意見	<p> 長年の地道な取り組みで確実に根付いている。青少年健全育成を推進するうえで大事な役割を担っており、今年は社会を明るくする運動のモデル地区になるということで、ますます追い風となって、そういう気運が高まっていくものと思う。当然難儀するところもあると思うが、ぜひ応援してもらって青少年健全育成の大きな柱にしていきたい。 </p>	

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援	
重点施策		
3	「未来大館市民」を育成するため、地域とのつながりを生かした活動の充実を図る	担当課(館)
	⑥ 少年相談センターの活動の充実	生涯学習課
活動内容	青少年が抱える悩みや問題を解決するための相談活動や指導員による巡回活動のほか、関係機関・団体・学校等と連携したさまざまな活動を行うことにより、青少年の健全育成を図る。	
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)	
	青少年や保護者が抱えるさまざまな問題に対応できるよう、電話や面接による相談活動を実施するとともに、教育研究所、おおとり教室、子ども課等の青少年関連機関との連携を図りながら、問題解決に努めた。また、少年指導員28名により、市内全コンビニ店への子どもの見守り支援活動、神明社祭典に伴う各講練習時の巡回活動、卒業式の市内巡回活動、生徒指導主事協議会との合同巡視などを通して、青少年の健全育成に努めた。(少年指導員の年間活動延べ200人を予定。令和7年度末をもって廃止する。)	
課題等	令和7年度の相談件数は、延べ418件(3月末時点)となっており、前年同期比で増加している。(前年度実績:402件) また、2人体制による相談センター業務であることから、現状の相談件数に対応できるよう業務内容の見直しを図りたい。 なお、令和7年度末をもって少年指導員が廃止となることに伴い、毎年4月に開催している少年相談センター運営協議会の会議内容が相談業務のみとなることから、令和8年度以降、運営協議会の在り方などを検討していく必要があると考えている。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等意見	本業務は青少年が抱える悩みや問題を解決するうえで無くてはならない業務だが、相談件数は増加しているとのことで、指導員の方の精神衛生、健康面のサポートをお願いしたい。 運営協議会の在り方検討も含めて、負担軽減に向けた支援をよろしく願いたい。	

基本目標	
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援
重点施策	
3	「未来大館市民」を育成するため、地域とのつながりを生かした活動の充実を図る
	担当課(館)
	生涯学習課
	⑦ 社会教育委員の活動の充実
活動内容	生涯学習推進計画や社会教育推進計画等、社会教育推進のための基本方針や重点施策を策定し、教育委員会点検・評価に対する必要な意見・提言を行い、社会教育活動の推進を図る。また、学校訪問・研修会等の開催を周知し、40人以上(延べ)の参加を目指す。
点検評価	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) </p> <p> ○北教育事務所主催の学校訪問は7回(13校)、市教育研究所主催の授業見学は5回開催された。 北鹿地区社会教育委員研修会は、令和7年10月28日に鹿角市十和田市民センターにおいて開催された。鹿角市立図書館 館長 小林 光代氏の講話のほか、隣接する新規オープンした図書館の施設見学を行った。 また、本市からは阿部委員長ほか3人が参加し、他市町の社会教育関係委員と「地域とともに歩む社会教育の在り方」について意見交換を行った。 そのほか、当課主催の講座や研修会など計16回の案内に延べ57人が参加し、積極的に活動することができた。学校訪問では各委員から各校の取り組みへの意見、助言など、学校を取り巻く環境の向上に対する熱意を伝えることができた。これまで懸案事項であった地区公民館への訪問活動は、令和5年度全国表彰された二井田公民館を訪問する機会を設定して、二井田三大魅力について意見交換と施設の見学を行うことができた。各種活動からの経験を生かし、社会教育・生涯学習の重点施策や事務事業の点検・評価について協議し、必要な提言を行っている。 </p> <p> 令和5年度 訪問等 延べ参加人数 54人(23回) 令和6年度 訪問等 延べ参加人数 47人(18回) 令和7年度 訪問等 延べ参加人数 57人(16回) </p>
課題等	<p> 学校訪問等を通じて、ふるさとキャリア教育や学校と地域とのつながりの中に社会教育委員として関わり、市民版ふるさとキャリア教育の推進に向け、見える活動を展開した。また、今年度は、北鹿地区社会教育関係委員等研修会では他市町村との交流、意見交換ができたこと。さらには、東北地区社会教育研究大会に参加し、他県の事例を学ぶことができ、充実した活動となった。来年度は、東北地区研究大会が秋田市で行われるため、より多くの方の研修会への参加の機会を増やしていきたい。 </p> <p> 取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度 </p>
学識経験者等意見	<p> 社会教育委員の方々の意欲がベースに無いと、いろいろな事業もできないと思う。数年に渡り活性化が図られている印象がある。活動内容も次につながっていくような事業が目に見えるので、今後に期待できている。 </p> <p> 8年度は秋田市開催の東北地区研修大会での発表もあり、ますます活動が広がっていく期待感がある。頑張してほしい。 </p>

基本目標	
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援
重点施策	
4	高校生や大学生による「街づくり活動」等を支援する
	担当課(館)
	① 「まちづくり会議HACHI」の活動への支援強化
	中央公民館
活動内容	<p>大学や大館青年会議所などと連携し、「高校生まちづくり会議HACHI」の活動を継続するとともに、「HACHI」メンバーに対し、未来づくりについて意見を出すなど幅を広げる活動へ助言と支援をしていく。</p> <p>大館巡りやハチウインのほかに、意見交換のための会議を年5回以上開催する。</p>
点検評価	<p> <input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) </p> <p>令和7年度は鳳鳴高校生9名、桂桜高校生3名、国際情報学院生7名、計19名が参加。大館巡りならびにハチウインの開催のほか、生涯学習フェスティバルでは、バルーンアートや積み木・塗り絵コーナー等を設置し、来館した子供たちとの交流の場を作った。大館巡りでは、市内の伝統工芸、企業見学など各所で説明を聞き、「大館」を学ぶ良い機会になった。</p> <p>今年度実績:活動回数 9回のべ59名</p>
課題等	<p>今年度の活動メンバーは1~2年生で構成されていたため、各回人数確保のハードルは昨年度に比べると低かったように思う。今後も1~2年生を中心に募集する。特に大館巡りにおいて、質疑応答に消極的な生徒が多く、積極的にコミュニケーションが取れるキーパーソンをpushさせるようにしたい。</p>
	<p>取組の方向性</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度 </p>
学識経験者等意見	<p>10年以上続く長い事業であり、引き続き若い世代の活動支援を図るため、多くの情報ツールを使い、OBの活用も含め活発な活動を期待する。また、HACHIに参加するメリットが明確化すると、もっと活発になるのではないかとと思う。メリットがあれば情報発信もしやすい。大学との連携も活性化の一つの手である。今後も活動を楽しみにしている。</p>

基本目標	
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援
重点施策	
5	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する
	担当課(館)
	生涯学習課
	① 「生涯学習フェスティバル」の実施
活動内容	社会教育施設・各種機関・団体等に協賛・参加を呼びかけ、生涯学習に関する実践活動の発表の場や理解する機会を提供し、市民一人一人の生涯学習への意欲を高める。9月、10月生涯学習推進月間の来場者数目標を6,000人とする。
点検評価	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) </p> <p> 9月、10月を生涯学習推進月間として、栗盛記念図書館、ほくしか鹿鳴ホール、北地区コミュニティセンターなど、各機関、団体等による協賛イベントが開催された。延べ参加・入場者数は9,476人。 9月27日、28日の中央公民館会場では、キッチンカーを公募し、4つの事業者が出店したほか、みんなの木育ひろば、中央公民館サークル協議会、大館市発明協会、教育研究所等による作品展示など、生涯学習の周知と実践活動発表の機会とした。さらに、手話教室やサウンドテーブルテニス体験、InBody無料測定会など体験型のブースも設け、来場者に楽しんでいただくことができた。2日間の来場者実績は、1,879人となり、昨年度よりもやや上回った。 今年度も各団体の生涯学習の実践の場と生涯学習を始める機会を提供し、市民の生涯学習の意欲向上を図ることができた。 </p>
課題等	<p>引き続きキッチンカーなど食事を提供できるブースを設けるほか、様々な体験ができるブースをはじめとする市民の「やってみよう」想いを実現できるようなイベントとしたい。また、来年度はメイン開催日に他の協賛予定団体の主催イベントが開催される予定であることから、周知方法を含め、協賛団体の連携した取組を通じて、来場者数を増やしていきたいと考えている。</p>
学識経験者等意見	<p>参加・入場者数を見ると目標を大幅に上回っており、そのことが参加者の意欲向上に繋がり好循環が生まれていくのではないかと期待している。市民の生涯学習の意欲向上を図り、参加者へのサポートを合わせて行っていただきたい。更にいいものができることを期待している。</p>
	<p>取組の方向性</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度 </p>

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
5	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する		担当課(館)
	② 地区住民や関係団体との連携強化		中央公民館
	活動内容	地域コミュニティ活動を支えるため、関係団体・関係機関と情報交換を行うとともに、相互支援の体制を強化する。また、その活動の様子を関係団体等に紹介することで連携を強化する。特に東日本大震災以降は避難所としての機能の強化がより一層期待され、地区住民との連携強化が不可欠であるため、より良い協力関係を築いていく。	
	点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)	
		地区公民館では、運動会やスポーツ大会、文化祭などの行事を地元町内会や婦人会などと協力して行っているほか、他事業にも地域の団体の意見を反映させている。 また、消防署や警察署、危機管理課の出前講座を活用した防災、防犯講座に地域ぐるみで取り組むなどして、関係機関とも連携を図っている。 今年度は、田代公民館を主会場に11月に大館市総合防災訓練を行った。 消防避難訓練は、公民館利用者や学校、町内会などと共催で各公民館で実施している。	
課題等	公民館は、地域コミュニティーの拠点であり、地域活動の支援はもちろんのこと、災害時の避難所として位置付けられている。少ない職員数で避難所として機能するためには、地域住民との連携は欠くことができない。しかし、少子高齢化に伴い、どの地域も地域活動の担い手不足が懸念されている。 有事における地区災害対策本部としての役割として、今後ますます進むであろう高齢化社会を見据えた訓練を実施していく必要がある。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度	
学識経験者等意見	地域コミュニティの中心は公民館であるが、時代が変化する中で住民と公民館を繋ぐ情報ツールについても更新が必要である。より時代に即した対応が必要。人口減少の中で職員数も減少しているが、公民館活動にはマンパワーが必要なため住民の援助が無いと公民館活動も機能しない。災害も頻発しており、住民との連携を深める活動を地道に取組み、地域住民のため行政支援をお願いしたい。		

基本目標	
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援
重点施策	
5	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する
	担当課(館)
	③ 地域コミュニティづくりに向けた支援体制の強化
	中央公民館
活動内容	地域のコミュニティ活動の拠点となっている、地区公民館及び分館等の修繕等施設整備を進めていきたい。
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) 今年度は、中央公民館換気扇交換、消防設備修繕や花岡公民館FF式ストーブ購入、田代公民館ワイヤレスマイクの更新など老朽化した設備修繕・備品等の購入等が実施された。今後も、地区住民や公民館利用者等の要望をもとに、施設の修繕や備品の更新を図る。 ○令和7年度実績 1.【修繕】中央公民館(旧サン・アビ)体育館 消防用設備修繕(当初予算) 2.【修繕】釈迦内公民館 大会議室前、調理室前 消防用設備修繕(当初予算) 3.【備品】中央公民館 調理室、視聴覚準備室 FF式ストーブ購入(当初予算) 4.【備品】田代公民館 ワイヤレスマイク購入(当初予算) 5.【備品】市民交流センター 第三研修室防災(遮光)カーテン購入(当初予算) 6.【修繕】中央公民館 換気扇交換修繕(調理室、2F男子トイレ)(9月補正) 7.【備品】花岡公民館 事務室、講堂 FF式ストーブ購入(9月補正)
課題等	地区公民館や分館の一部において、老朽化の著しい施設や備品がある。特にR8年は豪雪であったため、施設の雪害破損修繕にも取り組む必要がある。 今後は、老朽化や雪害修繕と合わせ、地区住民や利用者の要望を整理し、かつ、施設管理の負担を軽減する方向での施設改修(例:屋根の雪が円滑に排雪できる改造等)に取り組む必要がある。 修繕等の予算確保は今後さらに厳しくなることが予想されるが、地区住民の生涯学習の拠点確保と地域コミュニティ維持のため、優先順位を設定したうえで、予算確保に最大限努力する。
学識経験者等意見	今年の豪雪による被害が報告されているが、今後も同様の災害が起きないとは限らない。住民のためにも公民館の適切な管理は必要であり、予算を確保して年次計画で修繕、管理を実施して欲しい。
	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援	
重点施策		
5	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する	担当課(館)
	④ 公民館事業の充実と参加促進	中央公民館
活動内容	公民館の各種事業の内容を充実させ、魅力ある講座を開催する。さらに参加者の動向を見ながらレベルアップを図ることで、活発な公民館活動を展開する。また、既存の事業で参加者の少ない事業でも楽しみに来ている高齢者がいるため、存続できるようにしていく。社会教育講座:R7年度目標 1講座	
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)	
	地区公民館では、長く継承している釈迦内公民館の「相染慶老大学」、伝統を繋ぐ十二所公民館の「かまくら焼き」、名称を工夫しながら実施している長木公民館の「NAGAKIオリンピック」、「館長のちょぺっと講座」など地区公民館ならではの事業が実施された。中でも上川沿公民館の「春を呼ぶ音楽祭」は、約30名の参加があり大変好評であった。	
課題等	地域住民の減少が、公民館活動の停滞になりつつある。しかし、時代にあった地域住民のニーズを把握しながら事業の見直し・改善を進める必要がある。そのためには、必要に応じてNPO団体や県・市の出前講座、企業のCRS活動(社会貢献)を活用して事業を充実させる。また、他市町村を参考にしたり、複数の公民館共同による事業をさらに進め、地域を超えた新たな人間関係を形成したい。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等意見	すごく具体的で特徴のある事業が行われている。今の人間関係を大事にして今後も継続して欲しい。また、公民館間の情報共有や出前講座などの情報発信に取り組み、事業の充実、取り組みを継続して頑張してほしい。	

基本目標	
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援
重点施策	
5	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する
	担当課(館)
	生涯学習課
	⑤ 木育事業の実施
活動内容	移動型木育ひろばを展開する。市民交流センターの木育空間を利用した乳幼児から高齢者までの世代間交流の機会創出を図る。木育事業の回数:R7年度目標28回
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)
点検評価	<p>前年度に引き続き移動型木育ひろば「Let'sGo!木育ひろば」を、駅なか交流センター、介護老人保健施設、児童センター等で計20回実施し、幼児から高齢者まで延べ412人が木のおもちゃに触れながら楽しい時間を過ごした。</p> <p>2度目となる「みんなの木育ひろば」については、2日間で延べ1,879人の来場があり、多くの子育て中の親子が全国各地の選りすぐりの木のおもちゃと出会い、木の感触や香りを感じながら楽しい時間を過ごし、自然環境の保全や木材の良さを学ぶことができた。</p> <p>また、開催にあたり市内の木育インストラクター延べ29人、高校生7人にもボランティアとして協力いただき、世代間交流の場にもなった。</p> <p>R7年度活動実績</p> <p>①Let'sGo!木育ひろば 20回(412人) ②出前講座 7回(219人) ③みんなの木育ひろば 2回(1,879人) 計28回(2,510人)</p> <p>○木育ひろばの活動を広げる取組</p> <p>ほくしか鹿鳴ホール開催</p> <p>①もくもくひろば 4回(292人) ②花巻おもちゃ美術館工作教室 1回(170人) ③木育フェスタ 1回(530人) 計6回(992人)</p>
課題等	<p>より多くの市民が木に触れる機会を創出するため、木育イベントやワークショップを開催し、木の良さや自然環境の保全を周知していく。</p> <p>秋田杉をはじめとする市内及び県内の木や自然についても、木育インストラクター・木育インタープリターによるお話やイベントを通して周知していきたい。</p>
学識経験者等意見	<p>これからも期待できる、素晴らしい活動だと思う。小さい子から高齢者の方々まで対象も広く、癒し的な意味合いもある。空間構成みたいなものがとてもいい。人気も非常に高い。</p> <p>継続して事業を展開していただきたいし、サポートを続けてほしい。</p>
	<p>取組の方向性</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 継続</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止検討</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度</p>

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援	
重点施策		
6	「生涯読書」活動を推奨し、その推進と拡充に努める	担当課(館)
	① 図書館運営に関する進行管理	生涯学習課
活動内容	指定管理者の提案書に基づく適正な運営への必要な支援と指導を行うとともに、第四期市読書推進計画を指定管理者と共有し、図書館サービスの向上を図り「生涯読書」活動を推進する。	
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)	
	指定管理者による令和7年度事業計画と数値目標を提出してもらい、計画的な図書館及び松下村塾の利用促進と読書の啓発活動に努めている。 利用促進としては、古本バザーや工作体験などの多彩な催しを行う図書館まつりの開催のほか、絵画や絵手紙等の展示会、大館市に縁のある吉田松陰と松下村塾の魅力を幅広く市民に伝える事業など、様々なイベントを開催している。 また、読書啓発活動としては、今年で55回目となる大館市読書感想文コンクールの開催や、本を借りてビンゴゲームをする「図書館でビンゴ」、読書の幅を広げる「本のおたのしみ福袋」など、工夫を凝らした読書啓発活動に努めている。 読み聞かせボランティアサークルおはなしの森代表 遠藤 順子氏が令和7年度「子供の読書活動優秀実践団体」に対する文部科学大臣表彰を受賞された。これまでの主な活動であるブックスタート事業の読み聞かせ、市内中学校での保育実習での読み聞かせ講座の講師など多くの活動に意欲的に取り組み、子どもの読書活動推進に大きく寄与しており、図書館の利用促進にも貢献している。 (来館者数:目標135,000人、実績129,547人) (貸出冊数:目標197,000冊、実績191,370冊)	
課題等	人口減少や社会情勢の変化を踏まえながら、図書館等の利用促進や読書の啓発活動として、読書環境の整備や情報発信を充実させ、さらに魅力ある市民に親しまれる図書館運営ができるよう、指定管理者と十分協議しながら支援していく。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等意見	読み聞かせサークルは素晴らしい賞を受賞し、張り合いも出てますます活動が活性化されていくものと期待される。 来館者数約13万人は人口減の今にあっては決して少なくない。図書館はまた見直されていると思うし、読書は非常に大事にすべきもの。読書環境の整備や情報発信を充実させ、図書館運営に努力していただきたい。	

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援	
重点施策		
7	伝統・芸術・文化の継承と振興を支援する	担当課(館)
	① 芸術文化の鑑賞及び体験機会の提供	生涯学習課
活動内容	指定管理者との連携により、ほくしか鹿鳴ホール自主事業とさらなる鑑賞機会の充実を図る。 文化庁等が所管する各種事業の情報を学校、文化施設、関係団体へ積極的に周知・活用することにより、地域における芸術文化体験の機会を提供する。	
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95～100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80～94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)	
	指定管理者による令和7年度事業計画を提出してもらい、計画的な自主事業等の開催と施設の維持管理により施設利用の促進に努めている。 新規事業として、市内外で活躍しているアマチュアサークルやアーティストの演奏に加え「鹿鳴 音楽フェスタ&クラフト市」、第3回目となる「大館うたの日」を開催し、文化会館の賑わい創出に貢献した。 仙台フィルハーモニー管弦楽団によるフル・オーケストラのコンサートを11月12日ほくしか鹿鳴ホールにおいて開催した。大館市内中学校1・2年生対象に8校900人の中学生が参加した。指揮者は、秋田市出身の「佐々木新平」氏で世代を代表する指揮者として注目を浴びている方である。本格的なクラシック音楽の鑑賞のほか中学生の指揮者体験など約90分、生の音楽の魅力を感じ、フル・オーケストラの大迫力のサウンドを体験した。また、佐々木氏は時折秋田弁を交えた語りで、生徒たちとなじみながら、オーケストラと一体となってビリーブの合唱を行い、大変会場が盛り上がった。文化施設を会場とすることで鑑賞の場を学校の外へ広げ、複数の学校で合同開催をするなど、より幅広い体験の機会を創出するとともに将来の芸術家や観客層を育成し、優れた文化芸術の創造につなげることができた。 来館者数:R5年度61,714人、R6実績69,075人、R7実績73,259人	
課題等	ほくしか鹿鳴ホールも建築から40年以上が経過し、改修等を行いつつも、年々経年劣化が目立ってきている状況ではありますが、今後も市民と共に楽しみ・喜び合える文化事業の実施や、多彩で魅力ある集客力のあるイベントを開催し、文化芸術活動の継続・発展に努めていく。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等意見	来館者数増、市外からの来客は、魅力あるイベント開催、成果の現れと思う。宣伝効果もあり、広域的な企画にもなっていると思う。 仙台フィルハーモニー管弦楽団の鑑賞について、学校として芸術文化はすごいお金が掛かるので、行政の支援は本当にありがたいと思うし、子どもたちにとって貴重な経験となるので、継続して応援をいただければと思う。	

基本目標	
4	郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成
重点施策	
1	大館の歴史と文化を学ぶ機会を提供し、市民の誇りと自信を醸成する
	担当課(館)
	① 企画(特別)展の開催とホームページを活用した効果的な情報発信
	歴史文化課
活動内容	大館の歴史や自然及び文化財等について、市民の関心を高めてもらえるように、新収蔵資料展や絵画展、おひなさま展などの企画展を開催していく。市のホームページやフェイスブック、X(旧ツイッター)等を活用して周知し、リアルタイムに情報発信していく。
点検評価	<p> <input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) </p> <p>郷土博物館や鳥潟会館などの施設情報・天然記念物・イベントなどをお知らせするホームページの更新や、SNS(LINE、Facebook、X(旧Twitter))を積極的に活用し、情報発信を行った。常にSNSでの発信を心がけ、昨年度(277件)より多い件数(322件)を発信することができた。また、長走風穴館のYouTube動画やニホンザリガニの動画も発信した。</p> <p>郷土博物館での特別展、企画展として、平成8年の開館以降、さまざまな資料の寄贈を受けた中で、これまで未公開であった絵画や書の一部を厳選し、展示した「未公開資料展」(入館者897人)や令和5年度に実施された大館城跡の発掘調査で確認された柵・塀の痕跡や、二ノ丸に存在した江戸時代の遺構・遺物などを展示した「大館城跡・中仕田Ⅱ遺跡発掘調査成果展」(入館者672人)を開催し、市内外から多くの方にご来館いただいた。今後もニーズに合わせて企画していきたい。</p>
課題等	<p>これまで大館郷土博物館と鳥潟会館の2カ所で開催していたおひなさま展を、鳥潟会館庭園が国指定名勝になったことから、鳥潟会館での開催に一本化し、準備を進めていたが、災害級の大雪で屋根や庭木からの落雪の危険のため会館を臨時休館としたため、イベントも中止せざるを得なくなった。来年度は開催時期をずらすなどの工夫が必要と考えている。</p> <p>今後も各施設への見学の機会を増やすため、地元新聞やホームページ、SNSによりタイムリーにPRし、幅広い情報発信に努める。</p>
学識経験者等意見	<p>情報発信がうまくいっているように感じる。方向性も定まってきている。自信をもって今後も発信を積み重ねてほしい。反響も大きくなります期待値が高まる。</p> <p>今後もSNSを活用しながら企画展の開催などを発信し、市内外へ大館の歴史や文化を広め、大館びとの誇りを醸成していただきたい。</p> <p>雪に関しては残念だったが、安全が一番。おひなさま展は中止となったがその分、今年度たくさん見に来ていただけたと思うので、開催方法を工夫するなどして頑張してほしい。期待している。</p>
	<p>取組の方向性</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 継続</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止検討</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度</p>

基本目標		
4	郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成	
重点施策		
1	大館の歴史と文化を学ぶ機会を提供し、市民の誇りと自信を醸成する	担当課(館)
	② 博物館講座等の開催と研究紀要の発行	歴史文化課
	<p>活動内容</p> <p>北鹿地域の市町村へ連携を呼びかけて、各地域の歴史や自然、文化財などについての博物館講座を開催する。また大館郷土博物館において、発明クラブやわくわくサイエンス、出前講座などを関係団体と協力・連携して、市民に学びの機会を提供していく。また、自然や歴史、文化財などについての研究紀要を発行する。</p>	
	<p>点検評価</p> <p> <input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) </p> <p>市の歴史についての出前講座を3件実施した。子どもたちの知的探求心を刺激し、科学に関心を持つきっかけを提供するための科学教室「わくわくサイエンス」は、5回実施し115人の参加。(R6、5回、88人)</p> <p>また、2月には北鹿地方の自然、歴史、芸術などについて、地域住民の研究活動や生涯学習に役立てることを目的に「おおだて博物館講座」を開催した。今回のテーマは「大館のニホンザリガニと生息地を守る取り組み」で、生息状況や歴史、行われてきた保全の取り組みに焦点を当て、今後の在り方について展望するもので、講演やトークセッションを行い、大館鳳鳴高等学校生物部、ノースアジア大学明桜高等学校放送部、城南小学校のビデオ出演もあり、多彩な内容に参加者(23人)の反応も上々であった。特別展・イベント等は、「未公開資料展」、「松山尚『ニンギョ様を祀る』写真展」、「企画展 大館城跡・中仕田Ⅱ遺跡～令和5年度発掘調査成果展～」、「企画展 野生動物写真展(出張展)」の3回を開催した。</p> <p>また大館の自然や歴史、文化などに関する研究紀要「火内」を発行した。</p>	
	<p>課題等</p> <p>北鹿地域の市町村にある自然や歴史、文化財などについて、その魅力を広く発信するために、連携して博物館講座等を、オンラインでの視聴も検討して開催していきたい。</p> <p>また市民を対象にした自然や歴史、文化財などについて、各種講座を開催し情報発信して、学びの機会を提供していきたい。</p>	<p>取組の方向性</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 継続</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止検討</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度</p>
	<p>学識経験者等意見</p> <p>青少年を巻き込んだ動きが出てきており、とても良いと思う。子どもが来ると親も来る。取り組みが成果として出てきている。</p> <p>この地域の歴史や自然、文化財などについて学ぶ機会を提供し、市民の誇りと自信を醸成するための取り組みを継続していただきたい。</p> <p>科学教室の開催は、サイエンス、科学に興味を持つということにつながっていくので、普及拡大に向けアイデアをもって取り組んでいただきたい。</p> <p>大きな花が咲くのではと感じている。</p>	

基本目標	
4	郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成
重点施策	
2	郷土の伝統文化を継承・普及する活動を支援する
	担当課(館)
	① 大館市郷土芸能保存協会、大館市文化財保護協会と連携した事業の推進
	歴史文化課
活動内容	大館市郷土芸能保存協会に加盟する団体の郷土芸能の記録保存や継承、公開する機会を支援していく。また、市内に存在する文化財の公開や保護活動などを行っている大館市文化財保護協会の事業を支援する。
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) 大館市郷土芸能保存協会加盟団体は、きりたんぼまつりやアメッコ市などのイベントで、酒こし舞や獅子踊りなどの郷土芸能を市民に披露した。 大館市文化財保護協会との共催による文化財展覧会は、10月4日から6日までの3日間、中央公民館で開催した。今回は53回目、「江戸時代の羽州街道を行く 長坂~矢立峠」、「明治~昭和期 秋田の書画人展」、「南北朝~江戸時代の刀剣」の3部構成で、史料、絵図、写真、書画、刀剣などを展示し、市民の関心を高めることができた。
課題等	大館市郷土芸能保存協会は、高齢化や後継者不足などにより、活動を継続していくことが難しい状況となっている。 地域の郷土芸能を継承していくため、小中学校等での活動の支援を継続していく必要があるが、児童・生徒も減少しており、今後は活動の継続に支障をきたす恐れがある。 郷土芸能の記録保存について検討する段階にあると思われる。
	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等意見	人口減少に伴って、後継者不足という難しい問題をはらんでいるが、SNSでの発信が問題解決のヒントになるのではと感じる。 若い世代にストレートに教えると食いついて来るのではないかと感じる。 現状を発信していけば、やってみようという人が出てくるのではないかと感じる。 郷土の伝統文化の継承と普及のためには、地道な取り組みが必要だと思いが根負けせずに継続し、大館市郷土芸能保存協会、大館市文化財保護協会と連携しながら、頑張っていたきたい。

基本目標	
4	郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成
重点施策	
3	文化財の保護と調査を進め、未来に伝える
	担当課(館)
	① ニホンザリガニの生息地再生と増殖
	歴史文化課
活動内容	天然記念物「ニホンザリガニ生息地」の再生を目指す事業が令和7年度で9年目を迎える。第1人工生息地においては、生息個体数がおよそ30匹程度と定着しており、これを維持していけるように生息環境を適切に管理し、地元高校の生物部によるモニタリングを行っていく。また、第2人工生息地においても、生息環境を適切に管理し、モニタリングを行うとともにフェンスと門扉を設置する。ニホンザリガニの増殖技術の確立に向けて、専門家など関係者と情報交換していく。
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) <p>天然記念物を保存する気運を醸成するため、大館郷土博物館と男鹿水族館での飼育展示を継続し、教育普及に努めた。</p> <p>令和元年度に整備した第1人工生息地のモニタリング調査を、大館鳳鳴高校生物部に協力していただき、行った。6年続けて30匹以上の生息が確認されており、個体が定着していると考えられる。また、柵の周囲に植えた草木も順調に繁茂しており、生息環境として整ってきている。また、今年の8月に完成した第2人工生息地では、約20匹のニホンザリガニが確認された。これまで、捕獲や病原菌が持ち込まれる恐れがあるため、場所は非公表としていたが、フェンスや門扉の設置により環境が整ったため、今後は、第2人工生息地での活動を積極的に発信し、文化財保護意識の醸成に活用しながら、良好な生息環境を維持したいと考えている。10月には第2人工生息地で、市民ボランティアによる環境整備イベント(参加15名)を開催し、文化財保護への関心をさらに高めることができた。</p>
課題等	人工生息地でニホンザリガニの生育が安定してきているが、博物館内での水槽飼育による増殖技術がまだ確立されていないため、引き続き専門家の助言や協力を得ながら研究していく。 人工生息地のモニタリングを継続し、ザリガニが安定して生息できるよう環境を維持していく必要がある。
学識経験者等意見	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度 <p>長年の地道な努力に頭が下がる。天然記念物ということで責任も重く、困難な状況もあると思うが、これまで積み上げてきたものについてレベルアップを図っていただきたい。</p> <p>人工生息地からの発信は大きな動きにつながると思う。市内外にこの取り組みが広がっていくと思う。ケーブルテレビなどでも取り上げてもらえば新たな動きが見えてくるのではないかな。</p> <p>天然記念物を未来に継承するため、取り組みを継続してほしい。</p>

基本目標	
4	郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成
重点施策	
3	文化財の保護と調査を進め、未来に伝える
	担当課(館)
	② 市内遺跡発掘調査及び記録・出土品整理
	歴史文化課
活動内容	新庁舎建設事業に伴う大館城跡の発掘作業により出土した遺物の整理、記録、保存を行い、大館城跡全体の発掘調査記録報告書の刊行に向けて作業していく。また、市内の官民の開発事業や住宅建築等に係る発掘調査及び試掘・確認調査を相手方の理解を得て連携し、適時対応していく。
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) <p>令和3年から令和5年に行った、新庁舎建設事業に伴う旧庁舎建物跡地の発掘調査で出土した陶磁器や木簡などについて、発掘調査報告書の刊行に向け、整理・記録・保存を行った。</p> <p>また、この掘調査結果について、7月から9月にかけて、企画展「大館城跡・中仕田Ⅱ遺跡発掘調査成果展」を開催した。令和5年度の発掘調査で確認された柵・塀の痕跡や、二ノ丸に存在した江戸時代の遺構・遺物を展示し、大館市の文化的資産を広く発信するとともに文化財に対する保護の意識を高めることができた。</p> <p>また、県営圃場整備事業や土地造成工事などの官民の開発事業に伴う試掘調査を市内7ヶ所で行い、比内町の大岱遺跡からは竪穴建物跡や土師器が出土し、数珠掛遺跡では、職場体験学習として、東中学校2年生3名が発掘作業や出土品整理作業を行った。</p>
課題等	<p>令和5年度で完了した新庁舎建設事業に伴う発掘作業で確認できた遺構や出土品などについて、発掘調査報告書の刊行に向けて、その調査記録や出土品の整理・記録・保存を着実に実施していく。</p> <p>大館城の歴史や埋蔵文化財への興味・関心を高めていくため、出土品を公開するなど活用に努め、市民の貴重な共有財産である埋蔵文化財を子や孫の世代へ引き継ぐため、引き続き各地での調査に取り組んでいきたい。</p> <p>また市内の開発事業等に伴う発掘調査についても、相手方の理解を得ながら進めていく。</p>
	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等意見	<p>発掘は人手がかかる地道な作業であり、誰もができることでは無く専門性の高い事業だと思うが、文化財保護法でやらなければならない事になっている。マンパワーが大きいと思うので、人財の育成も含めて頑張っていただきたい。</p> <p>いろいろ課題もあり大変だと思うが、県の埋蔵文化財センターとのつながりも大事にし、文化財の保護に努めながら郷土の歴史と文化を学び、未来に伝える活動を継続していただきたい。</p>

基本目標	
4	郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成
重点施策	
3	文化財の保護と調査を進め、未来に伝える
	担当課(館)
	③ 国指定名勝「鳥潟会館庭園」の保存と活用
	歴史文化課
活動内容	令和6年度、鳥潟会館庭園が国名勝に指定されたため、庭園および関連建造物の適切な保存と活用を図る事業を行うための基盤となる「保存活用計画」を策定する。また、主屋については関係機関と連携し、重要文化財の指定を目指して取り組む。
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) <p>鳥潟会館庭園が令和6年10月に国の名勝に指定されたことから、庭園の本質的価値を保存し、子や孫世代に継承するため、学識経験者等による「名勝鳥潟会館庭園保存活用計画策定委員会」を設置し、今後20年を視野に概ね10年の方針を示す保存活用計画を策定した。来年度から、国の「歴史活き活き！史跡等総合活用整備事業補助金」を活用し、鳥潟会館の整備を進めるため、国に補助申請を行った。また、母屋の重要文化財指定を目指すため、国に建造物調査の補助申請を行った。令和7年10月に花岡小学校の児童による「花岡ピカキラ鳥潟会館ツアー！」を開催した。(参加者103人)児童たちが見学者に鳥潟会館の見どころを紹介し、茶席コーナーや花岡ふるさとカルタコーナーでおもてなしを行った。「鳥潟会館や花岡の歴史のすばらしさを伝え、地域を盛り上げたい」という児童たちの思いが伝わる、心温まるツアーとなった。児童たちはツアー当日だけでなく、ポスターやリーフレット、PR動画の作成など広報活動にも積極的に取り組んでおり、歴史を学ぶことを通じて地域文化の継承に貢献することが期待される。</p>
課題等	国指定名勝である鳥潟会館庭園の本質的価値を保存・継承し、今後の活用を見据えた整備を行うため、学識経験者等からなる「整備指導委員会」を設置し、保存活用計画に基づいた整備計画を策定する。今後も文化庁や県、整備指導委員会の指導・助言を受けながら、専門技術者や造園業者と連携し、計画的かつ着実に整備を進めていきたい。 また、母屋の重要文化財指定に向けて、県と連携して、調査事業の着手について準備をしていく。
学識経験者等意見	鳥潟会館での「花岡ピカキラ鳥潟会館ツアー！」について、児童たちが前日に行った練習を拝見した。指定を受けたことで取り組みに熱が入り、子どもたちの郷土愛の醸成にかなり役立つのではないかと感じた。教育的価値も含め有効だと感じた。 鳥潟会館の整備を進めていくにあたって、古いものなので手をかけなければならない所がたくさんあると思う。知恵を出して取り組んでいただきたい。 クマや雪の対応もいろいろあると思うが、鳥潟会館を子や孫世代へ継承していくことを住民としてもお願いしたい。
	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度

基本目標		
4	郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成	
重点施策		
4	歴史的風致維持向上計画に基づき、風致を構成する有形無形の文化財の保全と活用に努める	担当課(館)
	① 歴史的風致維持向上計画の事業に取り組む民間組織への支援	歴史文化課
	活動内容	文化遺産活用まちづくり実行委員会が取り組んできた事業を活用して、郷土の伝統芸能の継承と後継者の育成につながるよう、関係団体と連携して取り組んでいく。
	点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) 文化庁の補助による文化遺産活用まちづくり実行委員会の事業が令和4年度で終了し、昨年度と同様に7年度も実行委員会の加盟団体が、それぞれ補助事業の成果品を活用したPR事業などを展開した。 大館神明社例祭では、各町内でお囃子や踊りを継承し、コロナ禍前の通常の様で開催することができた。 建築士会によるヘリテージマネージャーは、国の登録文化財「桜櫓館」で建築様式や使用されている貴重な木材、施設の歴史や特徴について学びながら一緒に手入れや掃除を行う講座を開催し、地域資産の保全に関する活動を行った。
	課題等	伝統芸能組織の後継者が減少しており、文化遺産活用活用まちづくり実行委員会への新規加入には至らなかった。 今後も伝統芸能の継承と維持保存に向けて、関係団体と取り組んでいく必要がある。 取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
	学識経験者等意見	引き続き、歴史的風致維持向上計画に基づき、文化財の保全と活用に努めていただきたい。若い世代へアタックし刺激を与えることが一つのヒントとなるのではないかと感じた。テーマとしては大変大きく歴史を感じる部分ではあるが、視点を変えると違うものが見えてくるのではと思う。祭りは熱を帯びやすく、若者に入っていくやすいと思う。 桜櫓館はうまく活用できていると思う。建築士会などの他の団体との連携を深め、知恵を借りながら取り組んでいただきたい。

